

学生の意識調査から見る青山学院大学の学生像

2013年7月18日 第2回FDフォーラム「青山学院大学の学生意識調査～この4年間の軌跡」



Benesse®

2013年7月18日

(株)ベネッセコーポレーション

大学事業部 東日本営業課

谷口 雅子

t-masako@mail.benesse.co.jp

<http://www.benesse.co.jp/univ/>

内容

1	NO.3-NO.6	学生意識調査の概要
2	NO.7-NO.15	『1年生データから』 —どのような学生を受け入れているのか？ —学生は青山学院大学に何を期待しているのか？
3	NO.16-NO.22	『2年生データから』 —入学1年後の学生は何に取り組み今をどう感じているか？
4	NO.23-NO.29	『3年生データから』 —入学2年後の学生は今をどう感じているか？
5	NO.30-NO.42	『4年生(2012)データから』 —青山学院大学はどのような人材を育てたのか —卒業前の学生の大学生活に対する感想は
6	NO.43-NO.56	卒業生調査から教育改善のヒントを探る
7	NO.57-NO.58	まとめ・今後の活用について

【受検人数、受検率2013年度】

1年生 学生意識調査・・・ 3,798名(受検率96%)

2年生 学生意識調査・・・ 2,988名(受検率64%)

3年生 学生意識調査(キャリア・アプローチ)・・・ 2,618名(受検率61%)

4年生 (2012年度卒業生)卒業生調査・・・ 2,658名(受検率65%)

全国平均(2012年度を掲載)は93,529名

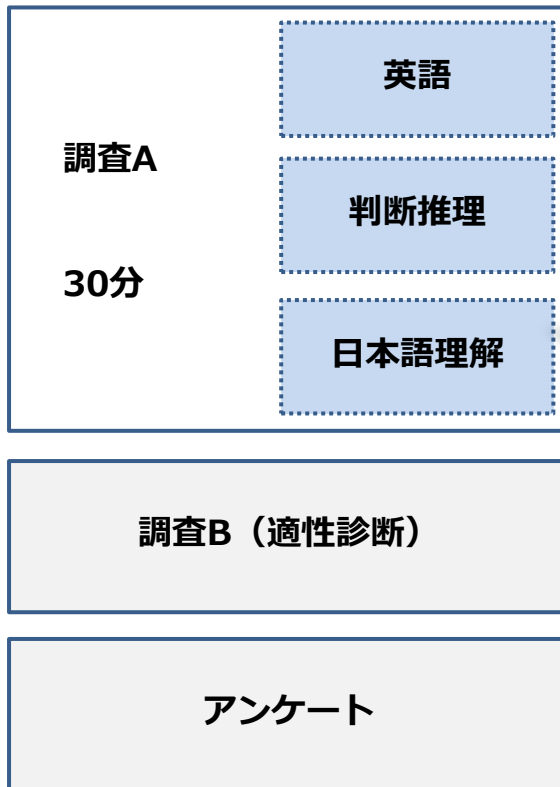
全国平均(2012年度を掲載)は25,843名

全国平均(2012年度を掲載)は46,613名

* 1年生～3年生:4月オリエンテーションもしくは履修ガイダンス時に着席方式にて実施

* 4年生(2012):2012年11月～2013年3月まで郵送方式にて実施

学生意識調査構成



【对学生】

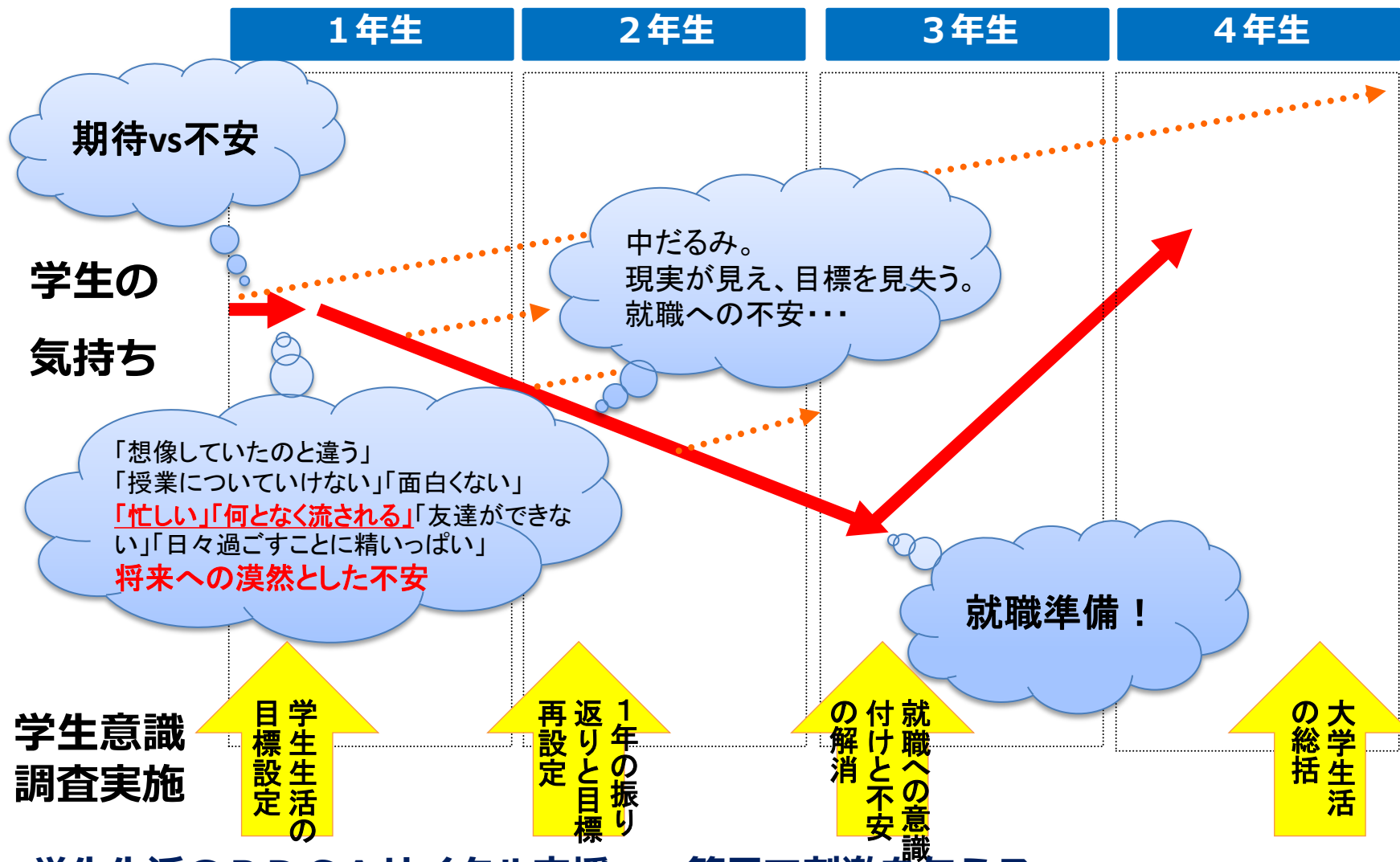
調査機能に加え、对学生個別フィードバックも充実
⇒自己理解に基づく進路オリエンテーションの役割



【对教職員の皆様】

複数の入試経路から受け入れた学生を、
さまざまな角度から分析することができるツール
⇒全国データと比較した相対的、客観的特徴の把握
⇒学生の個人・集団データとして可視化することが目的

- ・教職員の皆様と学生をつなげる多面的な基礎データ
- ・入試総括
- ・初年次教育、学士課程教育の検証データ
- ・広報データ（満足度など学生からの評価の公開）



● 学生生活のPDCAサイクル支援 * 節目で刺激を与える

* 特に大規模大学では、学生個人にリーチすることが難しい。

* 節目で刺激を与え、やる気を与える仕掛けを作る。(特に低学年における進路オリエンテーションの充実)

学生の意識・志向					学力・能力	
----------	--	--	--	--	-------	--

1年生	志望度	進学・ 入学理由	大学への 期待	学習習慣 (高校時)	進路 意識	基礎 学力	社会が 求める力
-----	-----	-------------	------------	---------------	----------	----------	-------------

入学時の大学への期待・本人の現状に対し

2年生	満足度 充実度 お勧め度	力を入れたこと	成長実感 ・ ギャップ	学習習慣	進路 意識	基礎 学力	社会が 求める力
	3年生	満足度 充実度 お勧め度	—	成長実感 ・ 要望	—	進路 意識	能力
4年生		満足度 充実度 お勧め度	力を入れたこと	成長実感 ・ 要望	学習習慣	就職 結果	—

大学全体・学部などの学生像を把握し

- * 大学は期待を裏切っていないか？
- * 青山学院大学で成長できたか？
- * 学生の潜在・顕在ニーズは何か？

P D C A サイクルの“Check”機能

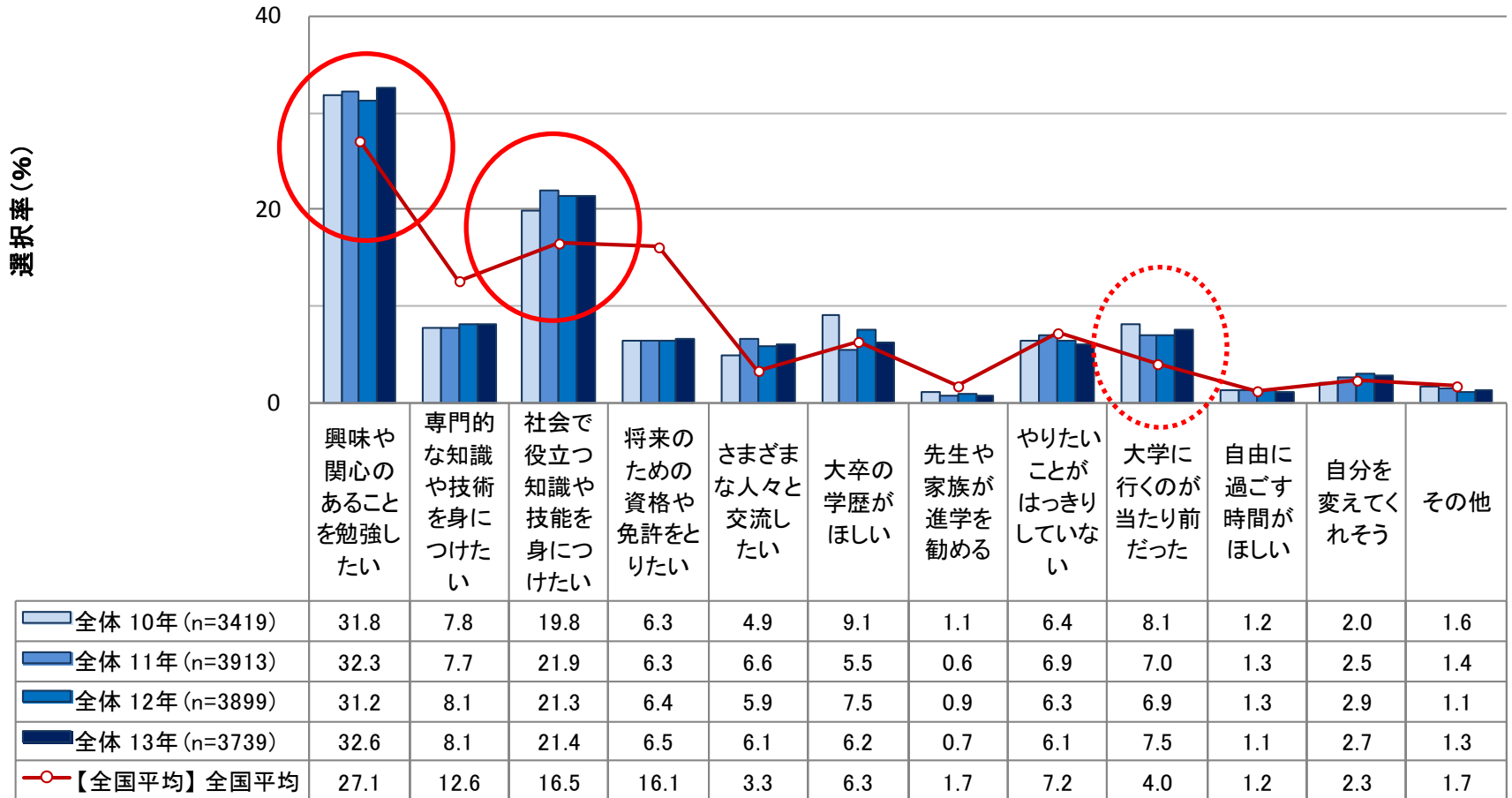
※今回のご報告は、主に網伏せ部分のご報告です。他の項目につきましては、別途学内資料をご確認くださいませようお願いたします。

	1年生	2年生	3年生	4年生
学力系	基礎学力	基礎学力	能力の強み	
大学進学・入学関連意識状況	進学理由 入学理由 大学志望度 学部学科志望度 教育理念認知度 大学生活への不安 大学選びに役立った情報 進学先決定時期 入試形態			【フェイスシート】 ・入学年度 ・入試区分 ・志望度(大学、学部学科) ・セミ所属有無 ・卒論提出有無 ・進学理由
入試				
学生のタイプ	社会的強み(自己コントロール力)(対人関係力)(社会的態度≒思考スキルなど) 進路意識(将来展望、学びの意識、職業内容理解、働くことの意味、自己理解)	社会的強み(自己コントロール力)(対人関係力)(社会的態度≒思考スキルなど) 進路意識(将来展望、学びの意識、職業内容理解、働くことの意味、自己理解)	社会的強み(自己コントロール力)(対人関係力)(社会的態度≒思考スキルなど) 進路意識(将来展望、学びの意識、職業内容理解、働くことの意味、自己理解) 性格の傾向	
授業への期待/学生生活への希望、振り返り	力を入れた活動 カリキュラムへの期待 授業への期待	力を入れた活動 授業への期待 授業への役立ち度	授業の役立ち度 セミ・研究室への所属	力を入れた活動 授業の役立ち度
英語	英語を身につけたいレベル 英語の長文読解方法	英語を身につけたいレベル		身につけたかったレベルと身に付いたレベル 英語学習状況と学習上の課題 もっと充実させてほしい分野 留学有無 留学しなかった理由 もっと充実させてほしい分野
進路系	職業への興味 卒業後の不安 進路への不安 学習経緯 読書量 出席率 学習習慣 自習時間	職業への興味 仕事選びの価値観 卒業後の想定進路 進路への不安 読書量 出席率 学習習慣 自習時間	興味のある職業 職業選びの志向 適性職種 卒業後の想定進路 進路への不安	職業・学習に対して意欲的になった時期とその契機 読書量 学習習慣
学習習慣				総合満足度(教育) 充実度 大学のお勧め度 学部学科のお勧め度 個別満足度 学部の授業やカリキュラム(教育関係、施設関係を含む16項目)
満足度・成長感				
課外活動				
就職活動				
	成長感 困っていること アルバイトの実施状況	成長感 困っていること アルバイトの実施状況	成長感 カリキュラム評価(9項目)※ 困っていること 就業活動への準備度合い 就職支援施設の利用頻度 進路・就職活動の相談先	成長感 カリキュラム評価(9項目) 社会で活躍できる自信 困っていたこと 社会人と接触する時間 進路・就職活動の相談先 卒業後の進路(現在の状態) 入学当初志望していた進路 就職活動期間に行っていたこと(企業内定者)内定先情報 内々定をもらった数 内々定をもらった時期 応募書類を出した社数 応募先を検討する際の重視事項 就職活動で苦労したこと (公務員等内定)進路を始めた時期 (公務員等内定)苦労したこと 進路満足度とその理由 就職への準備で役立ったもの 進路を考えると影響の大きかったもの 進路実現に向けて動き出した時期

2013年度 1年生

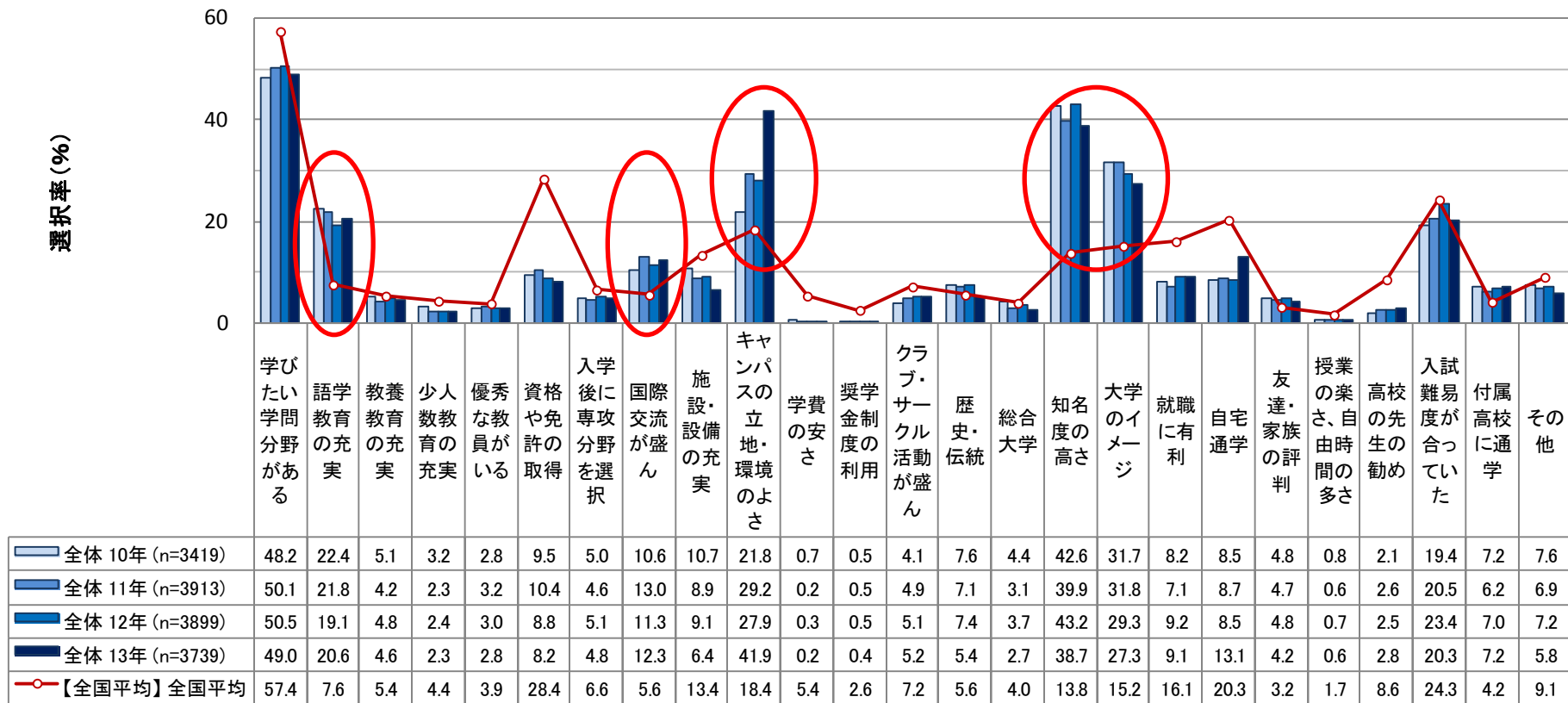
- どのような学生を受け入れているのか？
- 学生は青山学院大学に何を期待しているのか？

進学理由(2010-2013)



- この4年間で大きな変化なし
- 「興味や関心のあることを勉強し」、「社会で役立つ知識や技能を身につけたい」
- 「大学に行くのが当たり前だった」の比率は例年7~8%前後(全国4%)

入学理由 (3つまで選択)2010-2013

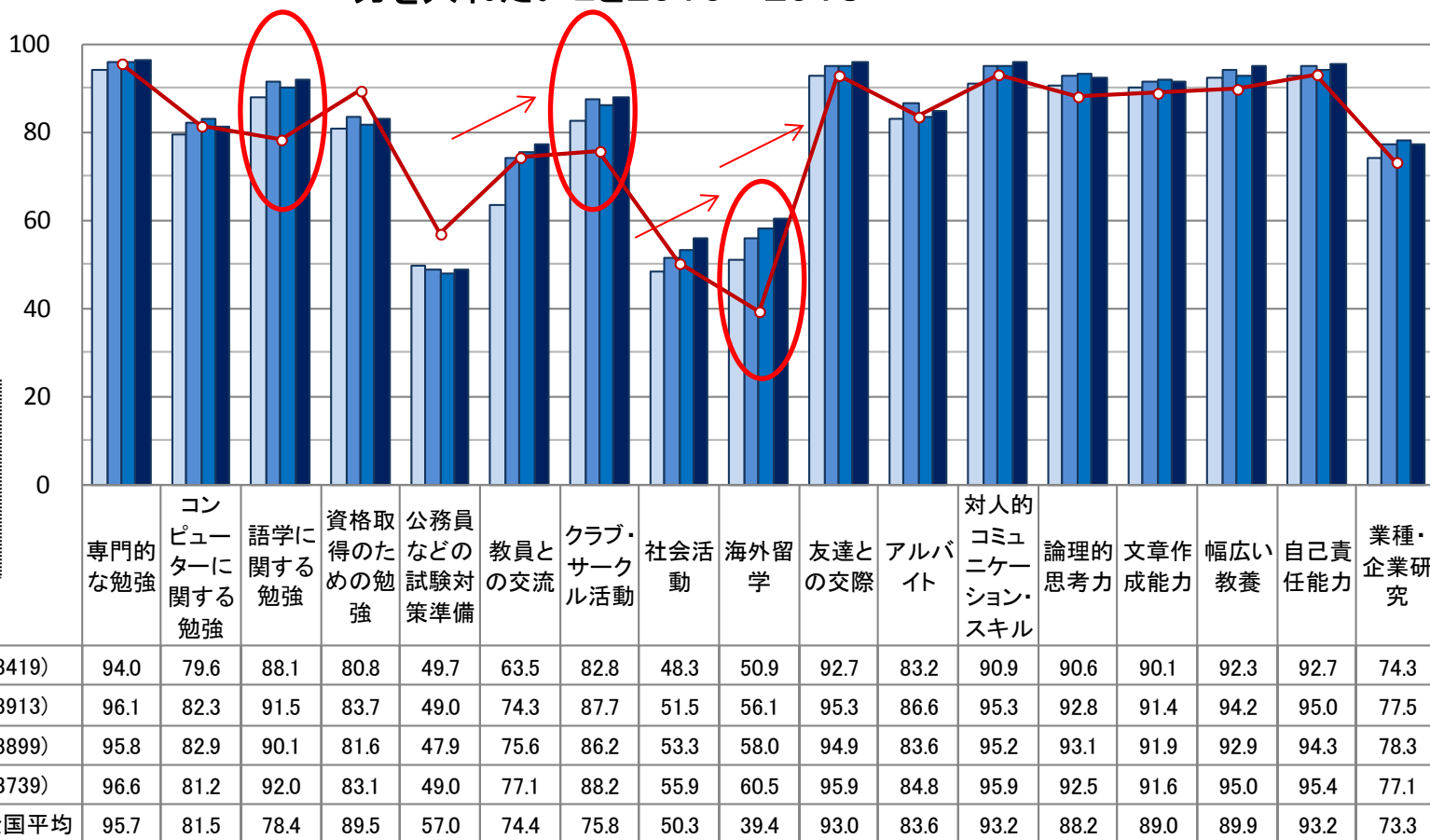


- 「学びたい学問分野がある」「立地・環境」「知名度」「大学のイメージ」の順で選択率が高い
- 特徴的・・・「語学教育の充実」「国際交流」「大学ブランド(知名度・イメージ)」⇒学生の期待

力を入りたいこと2010-2013

肯定回答率(%)

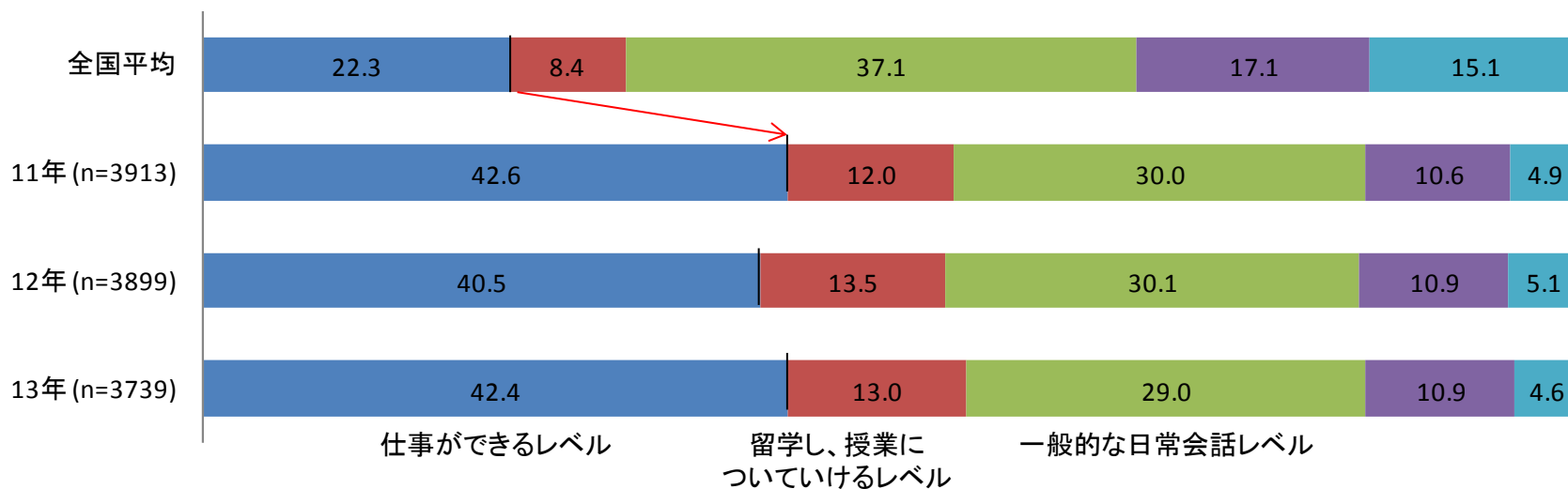
※17項目の各項目に対し、「かなり力をいれたい」+「やや力をいれたい」と肯定的に回答した割合



- この4年間では「教員との交流」・「社会活動」・「海外留学」の希望増
- 特徴として、入学理由と同様、語学や留学に対する期待が高い
勉学だけでなく、「クラブ・サークル」などにも関心が高い

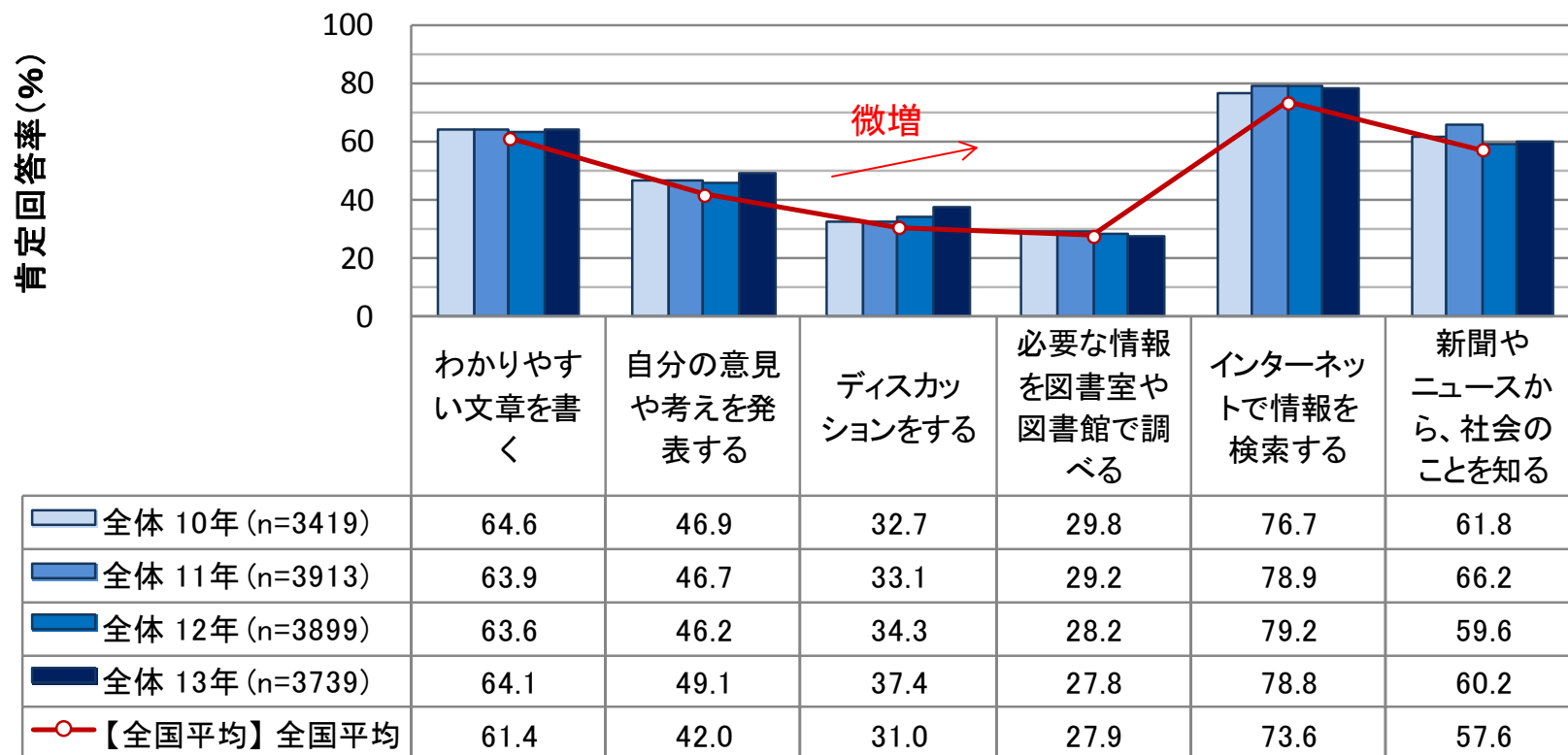
身につけたい英語のレベル2010-2013 (選択率%)

- 仕事ができるレベル
- 留学し、授業についていけるレベル
- 一般的な日常会話レベル
- ホームステイや語学研修で楽しむレベル
- 大学の単位を落とさなければそれでよい



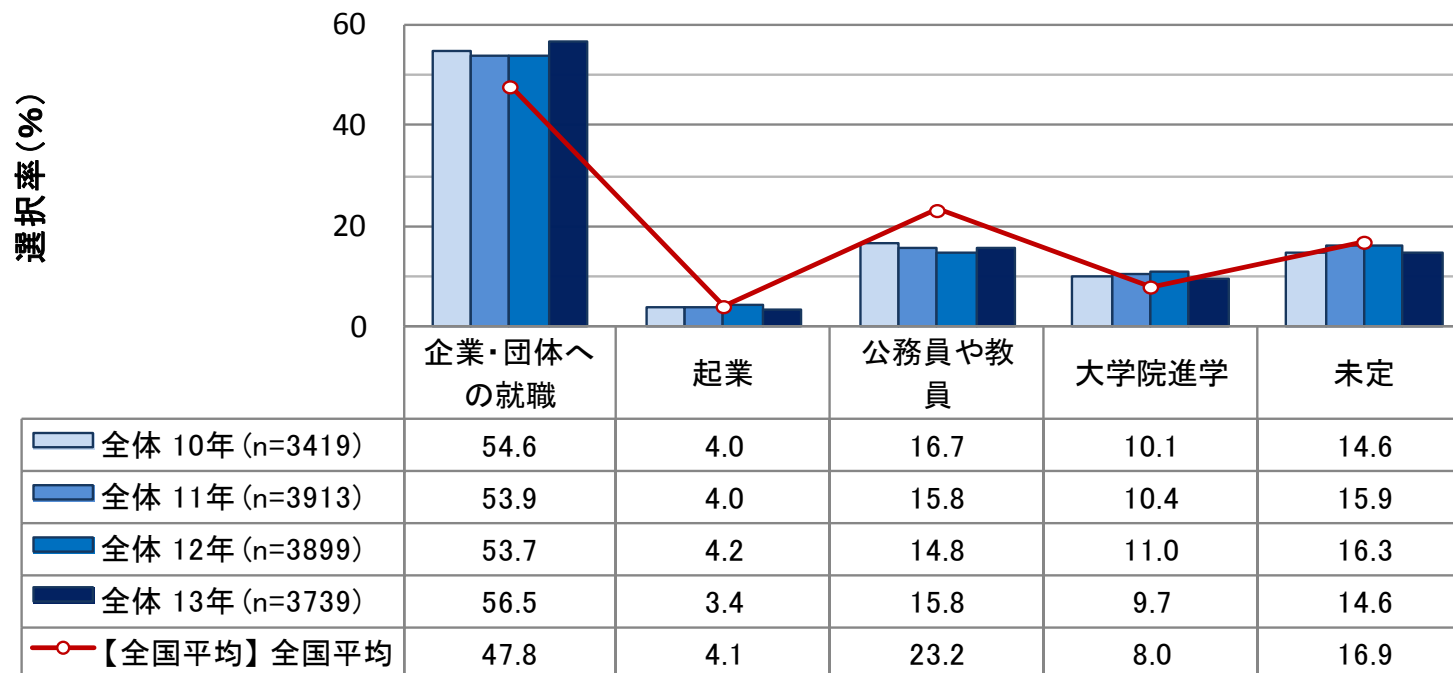
●「仕事ができるレベル」と「留学し、授業についていけるレベル」の合計が例年55%前後

学習経験2010-2013



●「ディスカッションをする」はこの4年間で微増(全入試区分、全学部)

卒業後の想定進路2010-2013

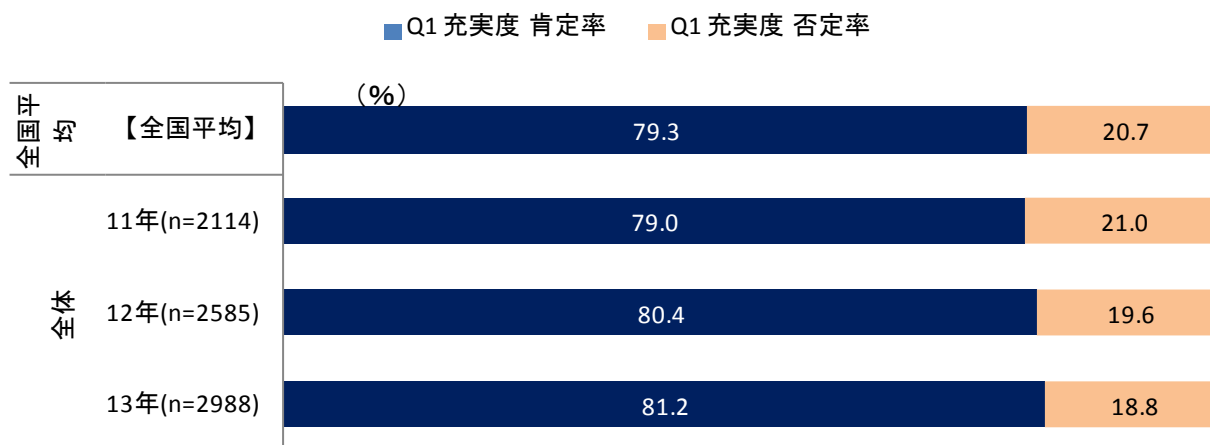


- この4年間では大きな変化なし
- 「企業・団体への就職」希望は例年55%前後

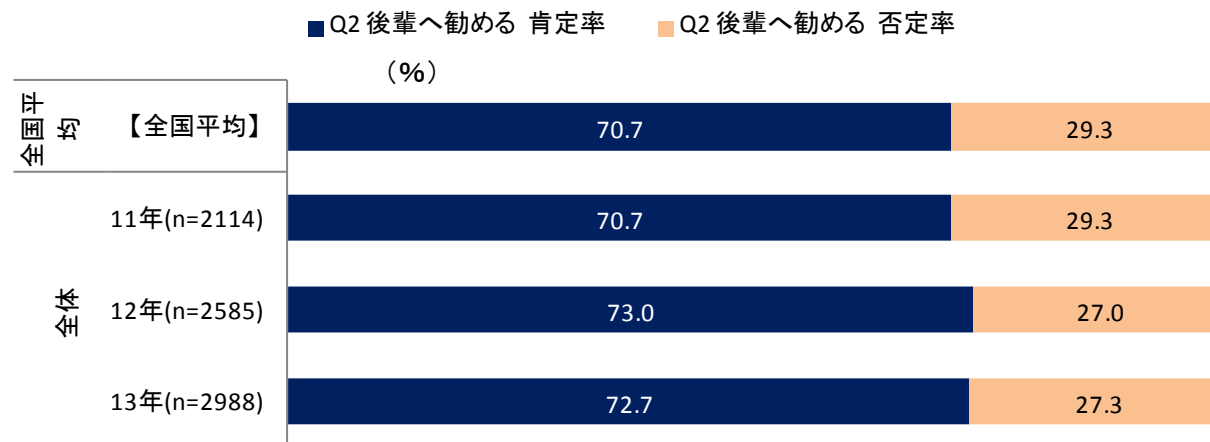
2013年度 2年生

- 入学1年後の学生は何に取り組み今をどう感じているか？

(大学生活は)充実しているか

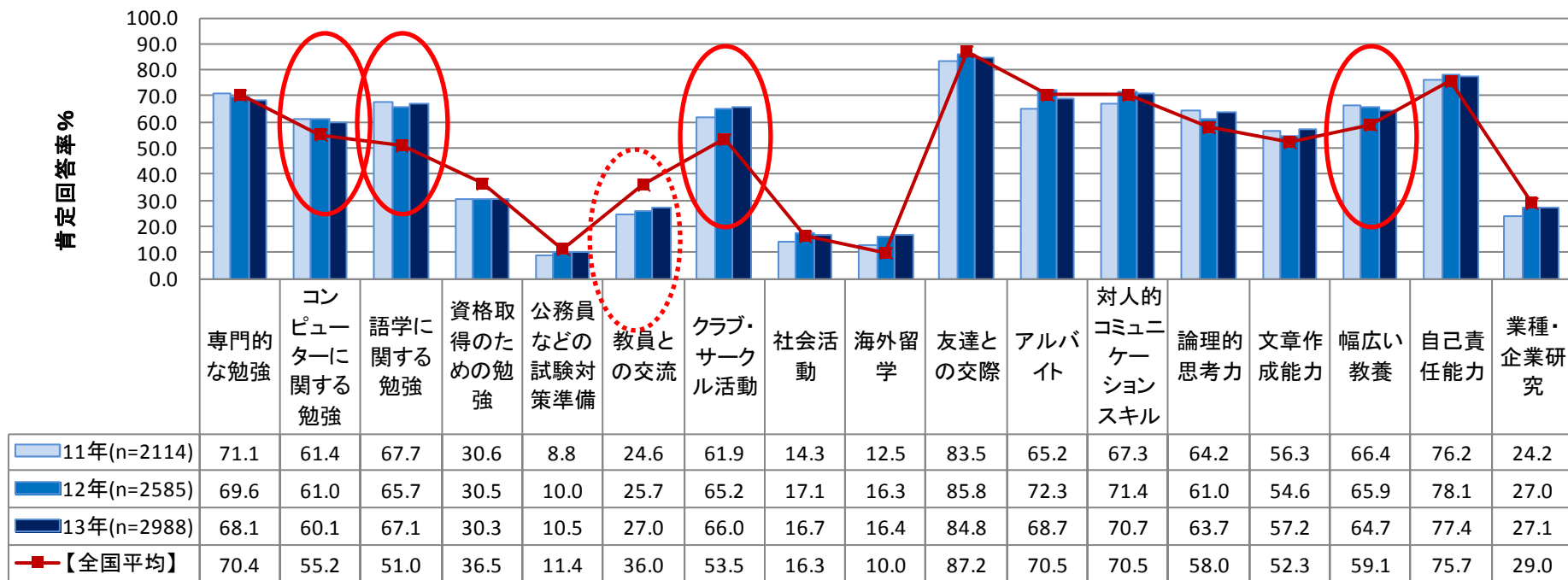


(学部・学科を)後輩に勧めるか



- 「とても充実している」+「まあ充実している」と答えた比率・・・81.2%(2013年度)
- 「後輩にとっても勧めたい」+「まあ勧めたい」と答えた比率・・・72.7%(2013年度)

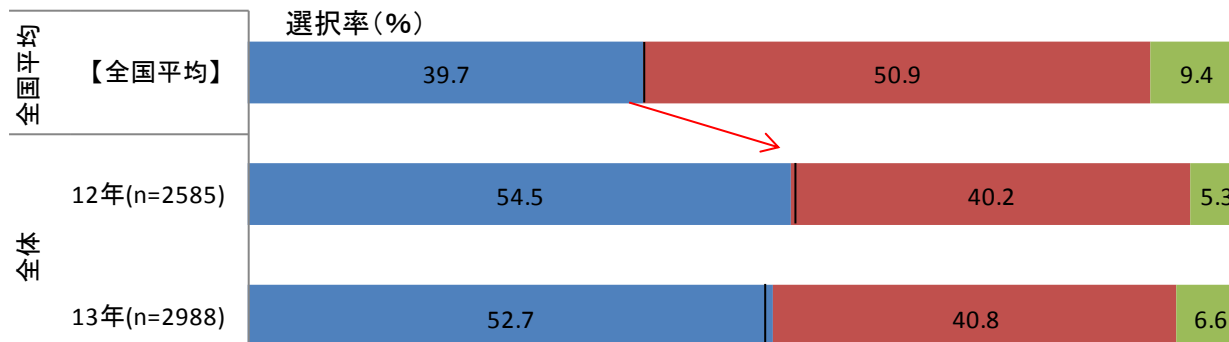
学生生活・力を入れた程度(肯定の回答が選択された比率%) 2011-2013



- 特徴として入学時の希望と対応し、「語学」「クラブ・サークル」などに取り組んでいる学生が多い
- 青山スタンダードの影響か、「コンピューターに関する勉強」「幅広い教養」に取り組んだ自覚がある割合が全国を上回る
- ここ数年期待が高まっている「教員との交流」は、全国平均に満たない状態

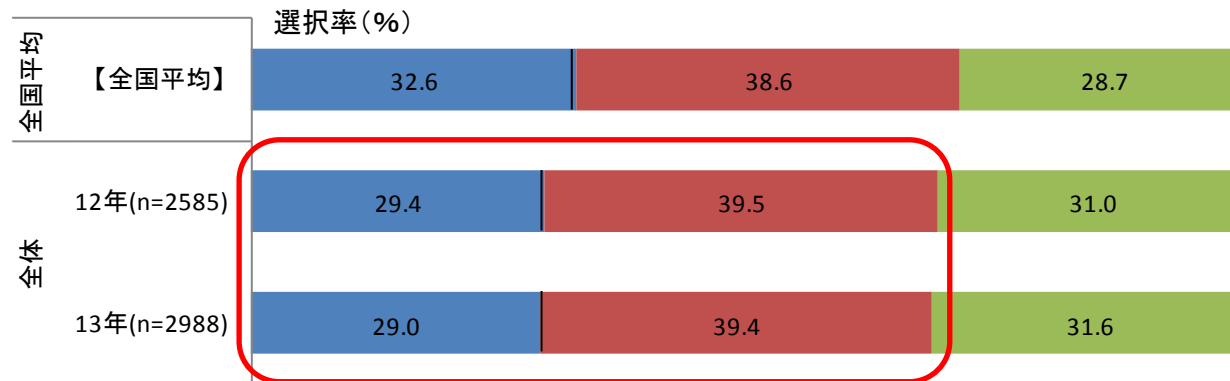
入学前の大学に対するイメージ

■ 良いイメージ ■ どちらとも言えない ■ 悪いイメージ



入学後のイメージギャップ

■ 想像より良かった ■ 想像通り ■ 想像より悪かった



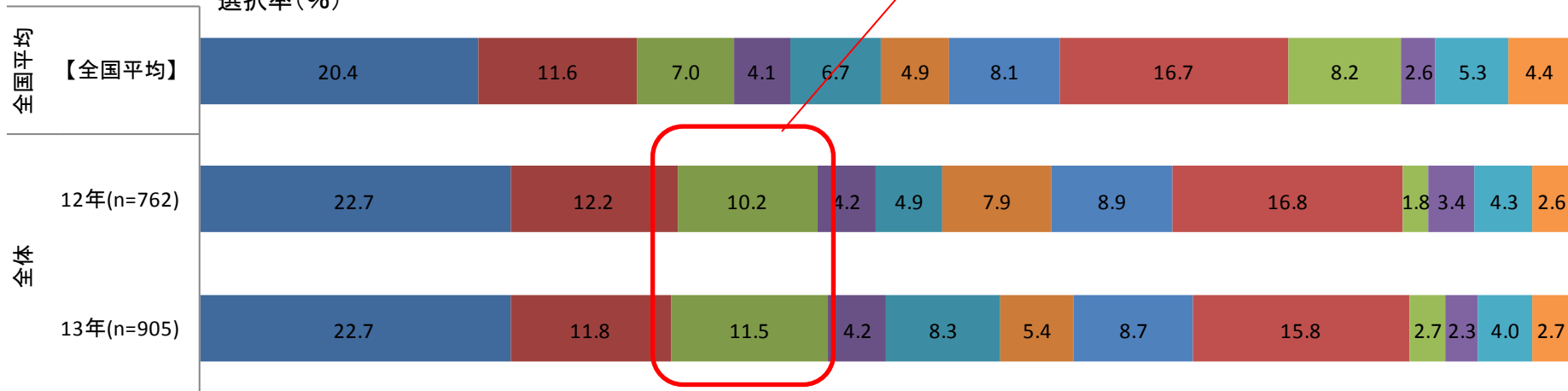
- 青山学院大学…入学理由で確認できるように入学前の「大学のイメージ」がよいとする割合は高い
- 入学後に「大学のイメージ」を維持している(反動を起こしていない)

想像より悪かった項目2012-2013

※想像より悪かったと回答した学生対象

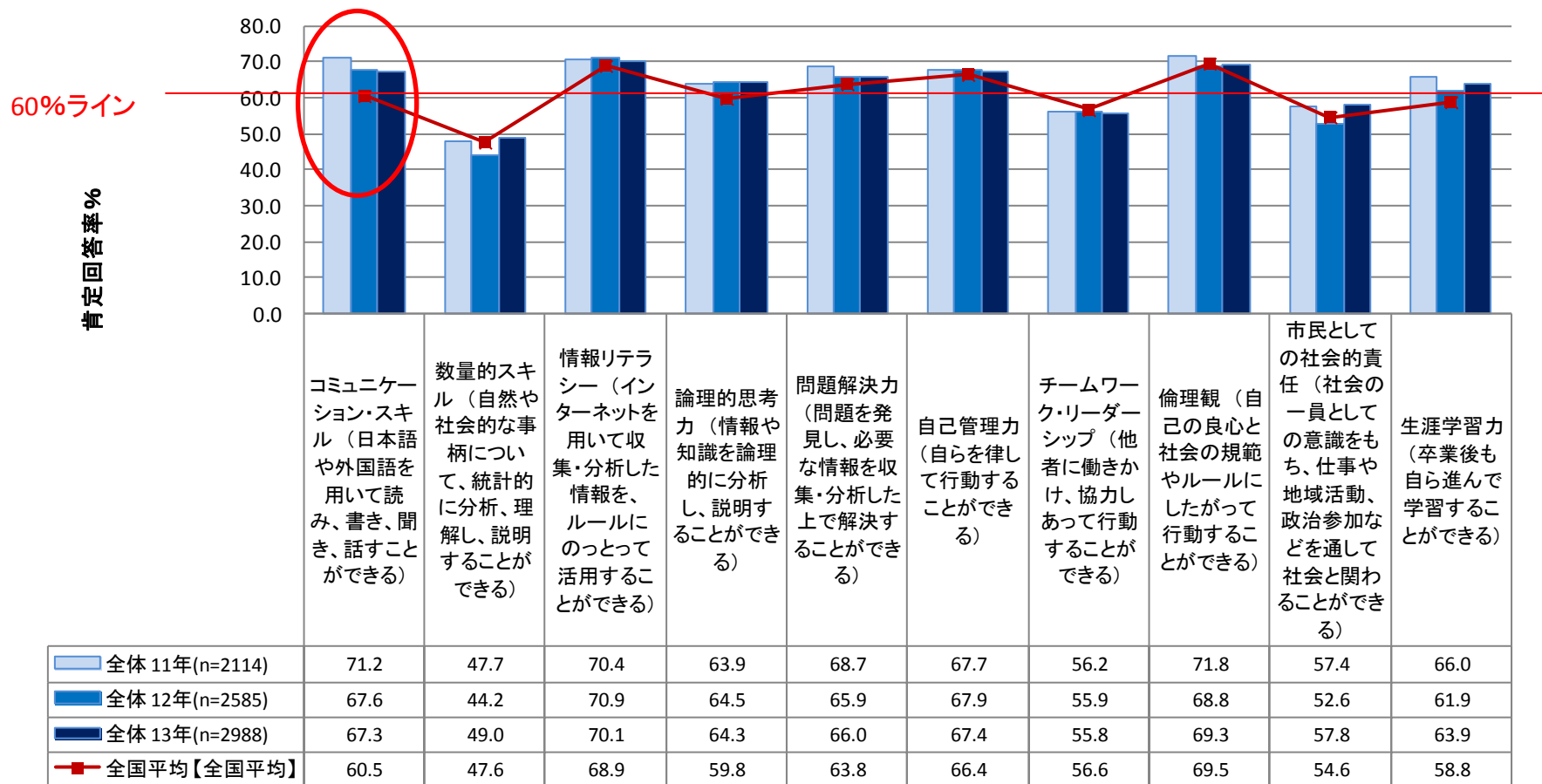
- 1 興味のある科目の数が少ない
- 2 授業の内容が難しい
- 3 語学教育が不足している
- 4 専門科目が少ない
- 5 自由時間が少ない
- 6 教員との交流機会が少ない
- 7 学生同士の交流機会が少ない
- 8 周囲の学生の意識が低い
- 9 キャンパスの施設・設備が不十分
- 10 キャリア形成支援・資格取得支援が不十分
- 11 その他
- 12 特になし

選択率(%)



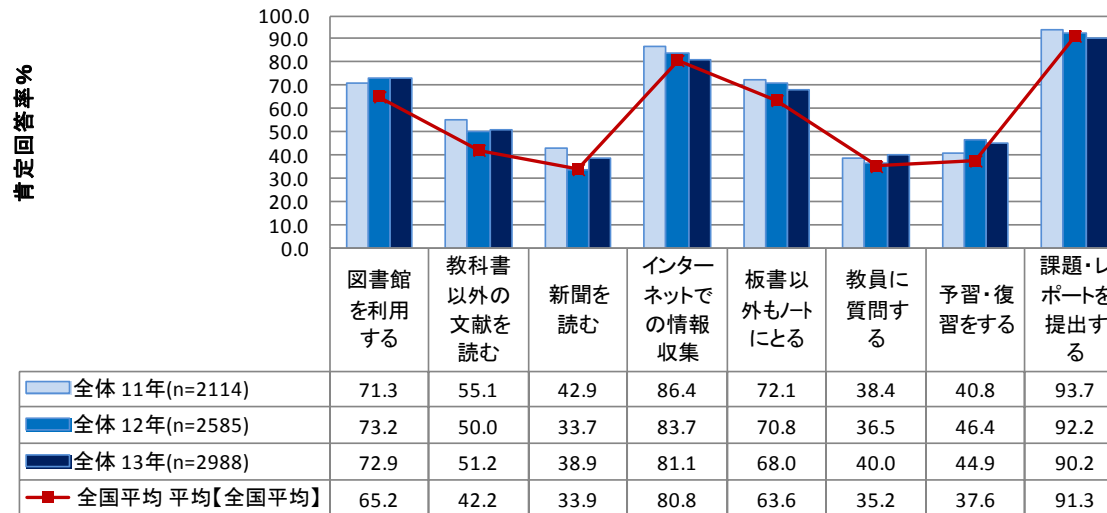
●入学時に高い期待が寄せられている「語学教育」に対し、「想像より悪かった」が上がる

どのような能力を身につけるのに授業が役だっているか2011-2013

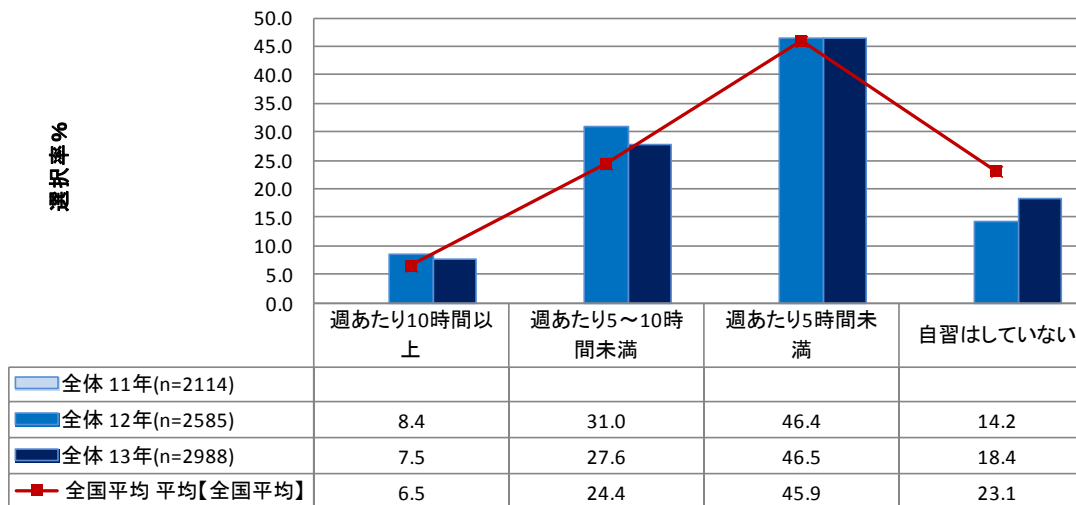


- 「数量的スキル」「チームワーク・リーダーシップ」「市民としての社会的責任」以外は60%以上の学生が能力獲得に授業が役だっていると回答
- 入学時の希望・取り組みと対応し、特に「コミュニケーションスキル」への役立ちを実感(対全国)

学習習慣2011-2013



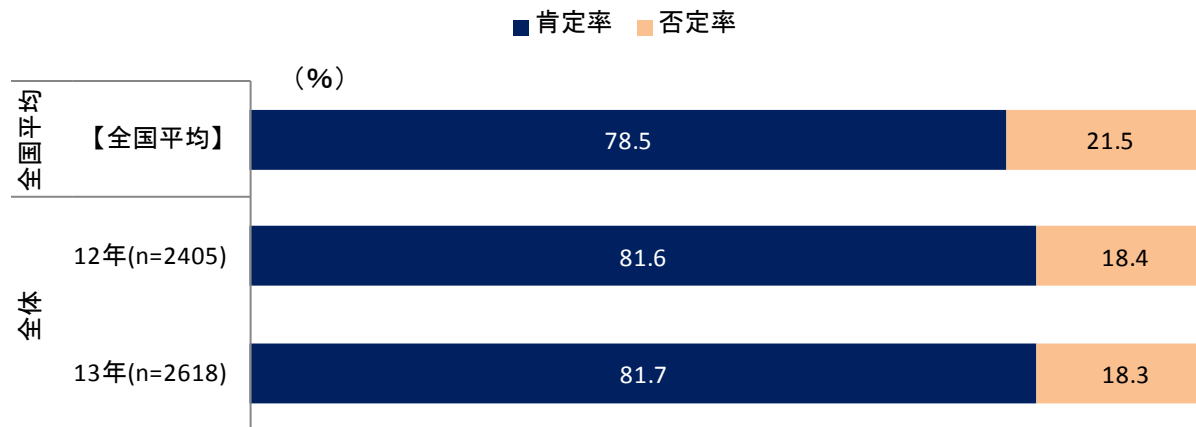
1週間あたりの自習時間2012-2013



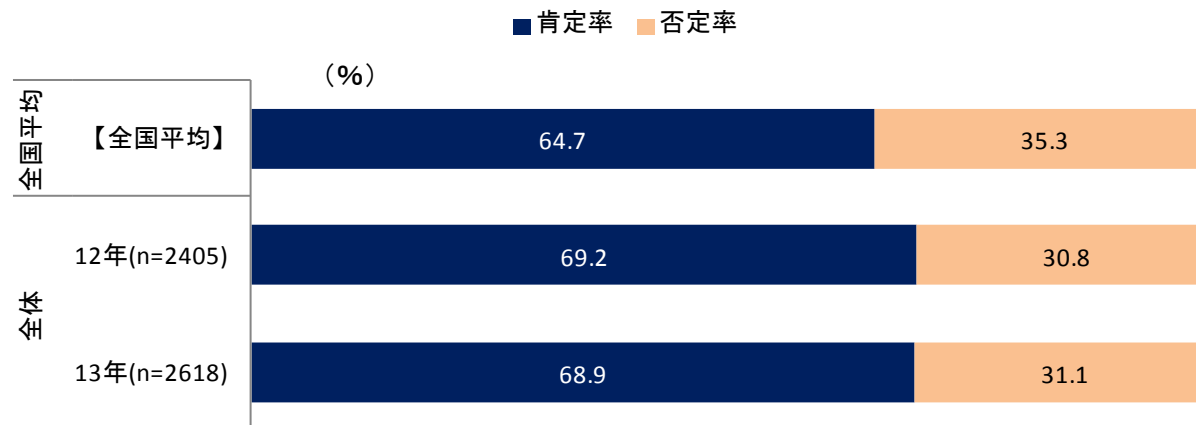
2013年度 3年生

- 入学2年後の学生は今をどう感じているか？

(大学生活は) 充実しているか

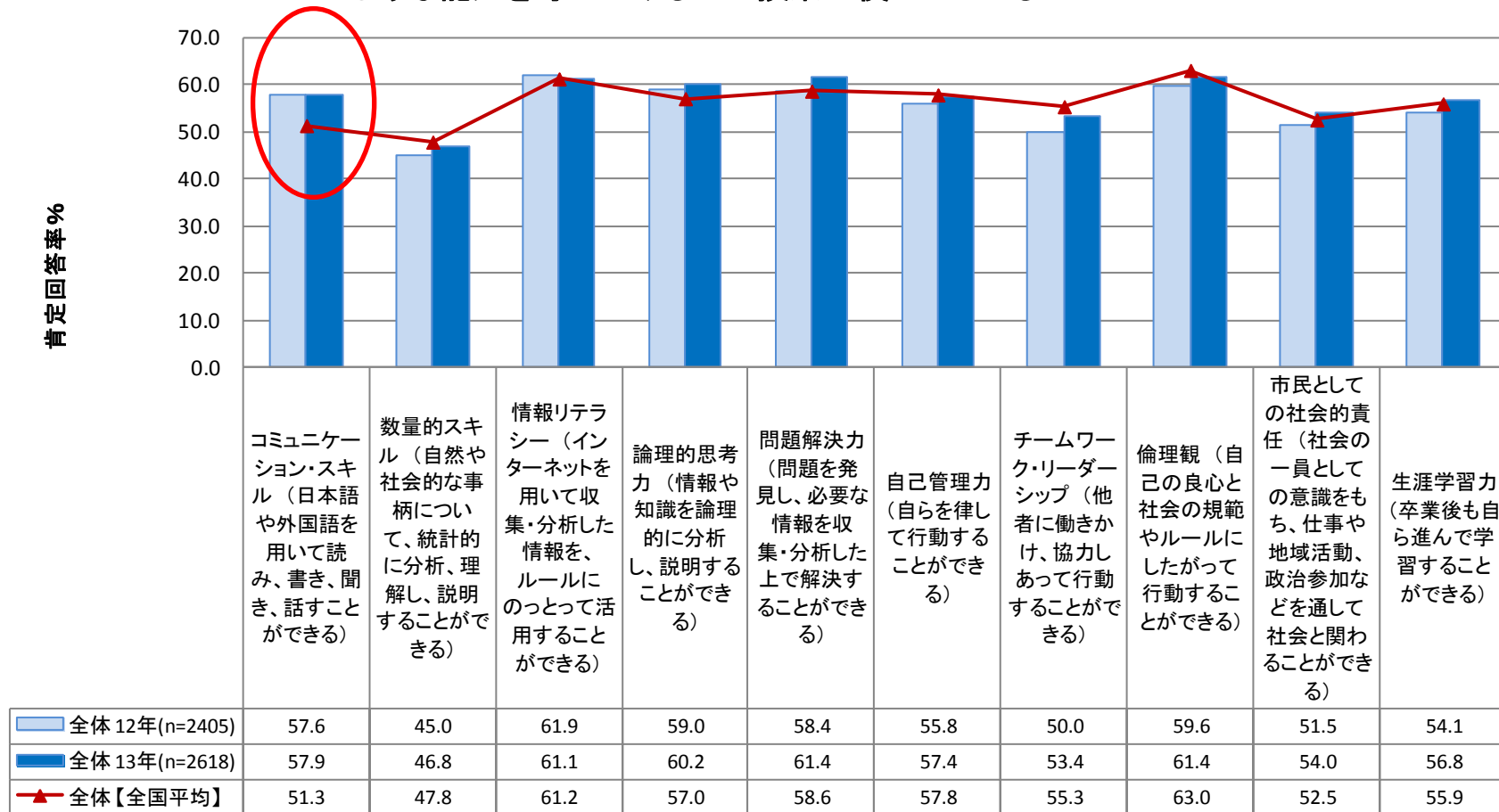


(学部・学科を) 後輩に勧めるか

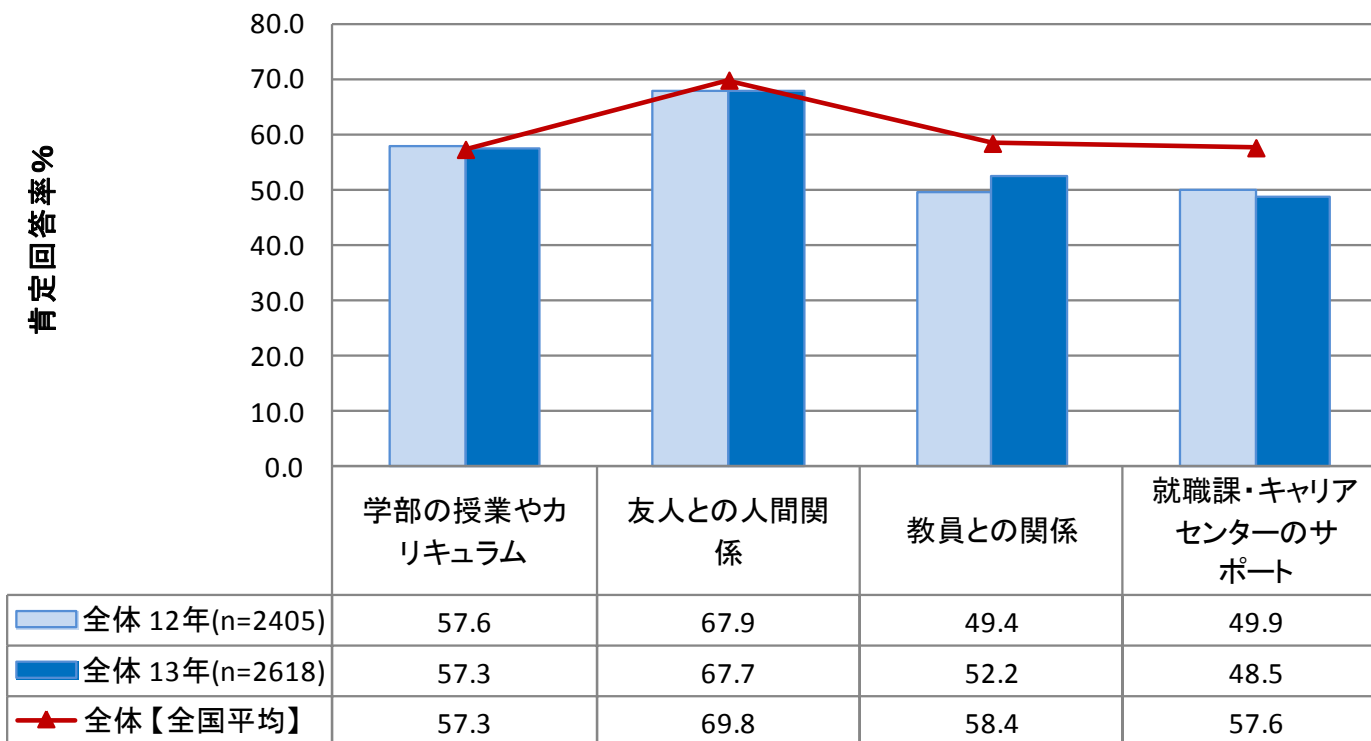


- 「とても充実している」+「まあ充実している」と答えた比率・・・81.7%(2013年度)
- 「後輩にとっても勧めたい」+「まあ勧めたい」と答えた比率・・・68.9%(2013年度)

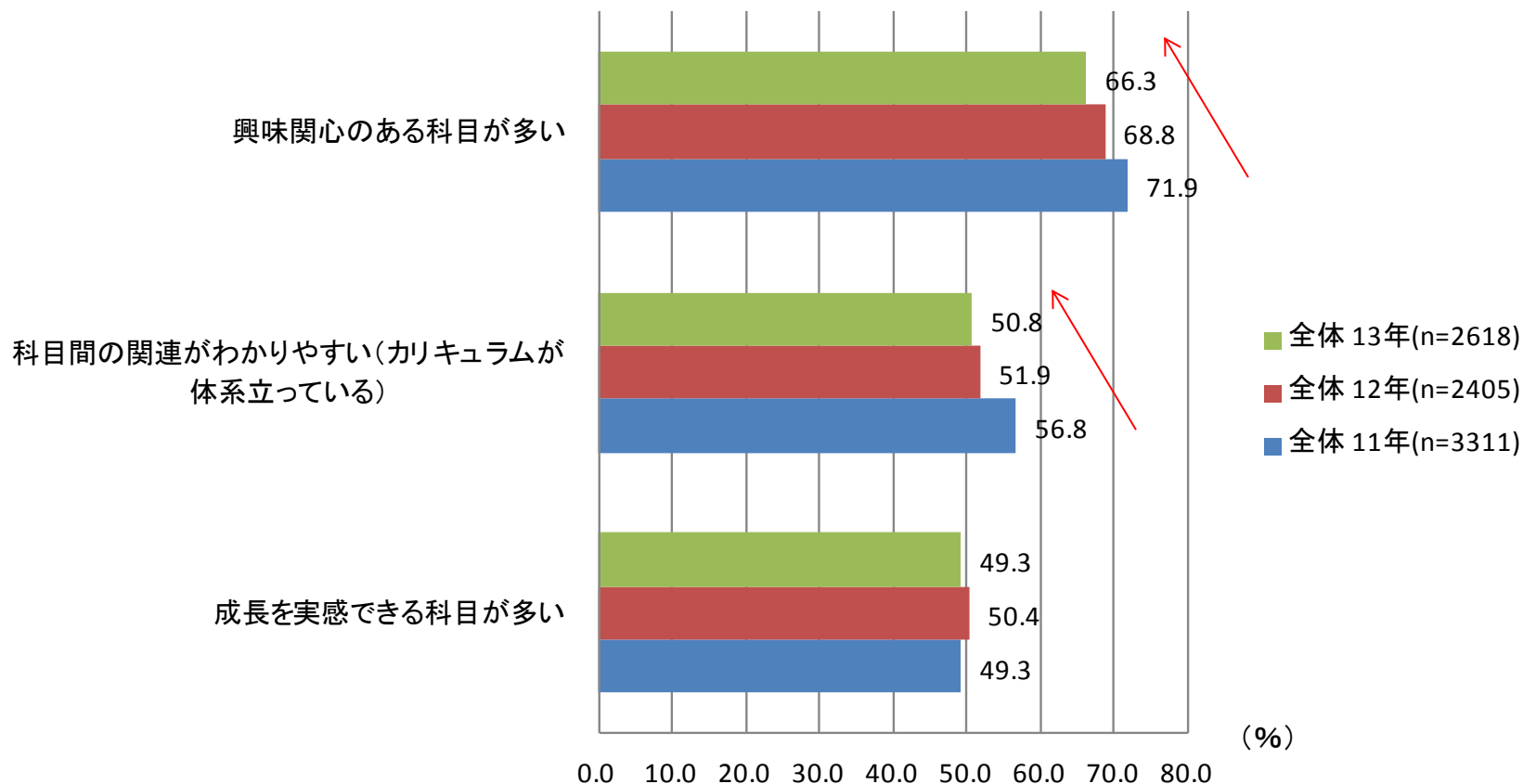
どのような能力を身につけるのに授業が役だっているか2011-2013



大学生生活の満足度(個別項目)2012-2013

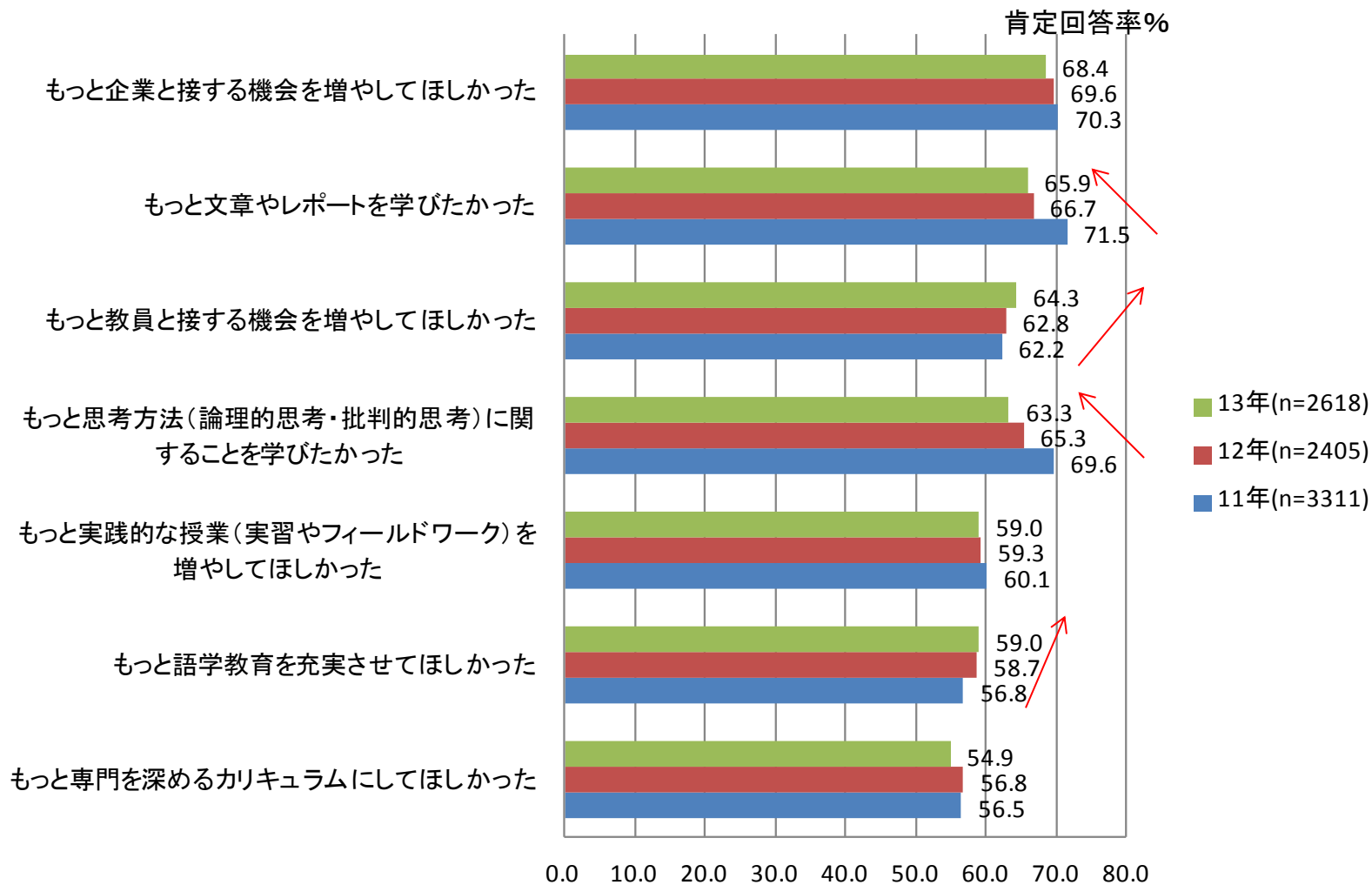


カリキュラム感想2011-2013 肯定回答率%



- 「興味関心のある科目」・「科目間の関連」の数値低下、
「興味関心のある科目が多い」と「成長を実感できる科目が多い」のかい離をどう解釈するか

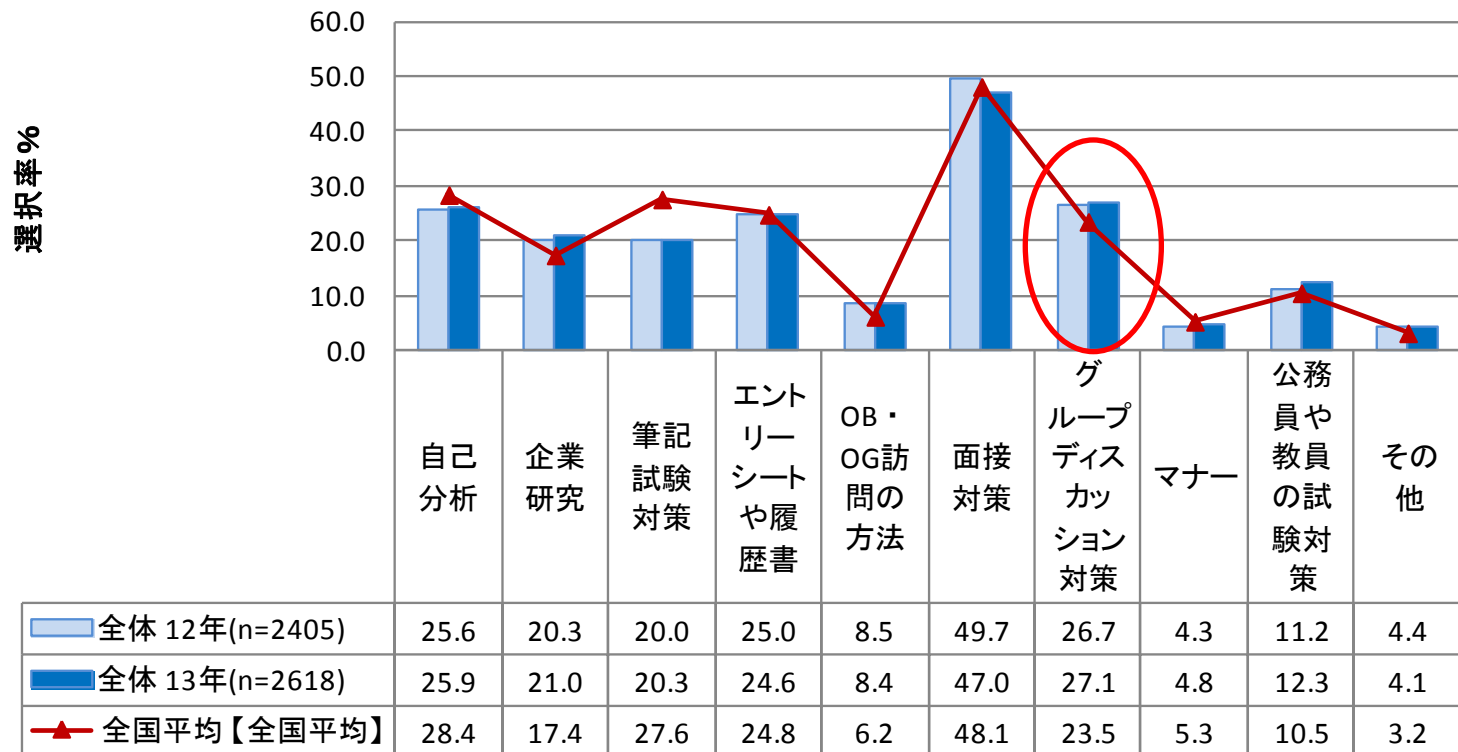
大学教育への要望2011-2013



●一番の要望・・・「企業と接する機会を増やしてほしい」

●入学生の希望の傾向と同様「教員と接する機会」「さらなる語学教育の充実」を望む傾向

就職活動への不安(二つ選択)2012-2013



●筆記試験対策よりも、自己分析、ES対策、グループディスカッションに対する不安

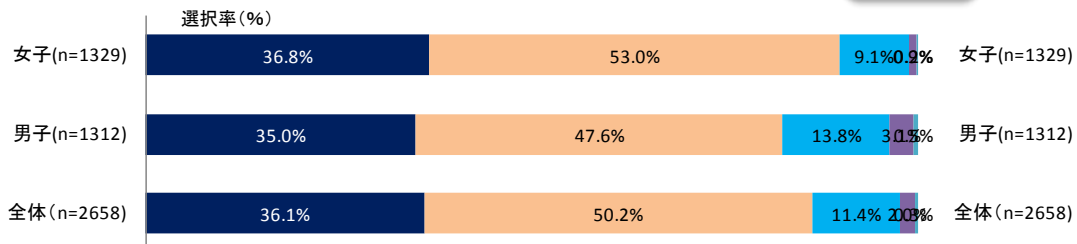
2012年度 4年生 (卒業生調査)

- 青山学院大学はどのような人材を育てたのか
- 卒業前の学生の大学生活に対する感想は

大学教育への総合満足度

90.1
%

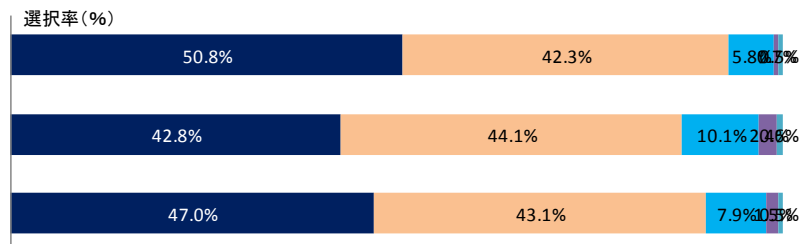
■ とても満足している ■ やや満足している ■ あまり満足していない
■ まったく満足していない ■ 無回答



学生生活の充実度

86.3
%

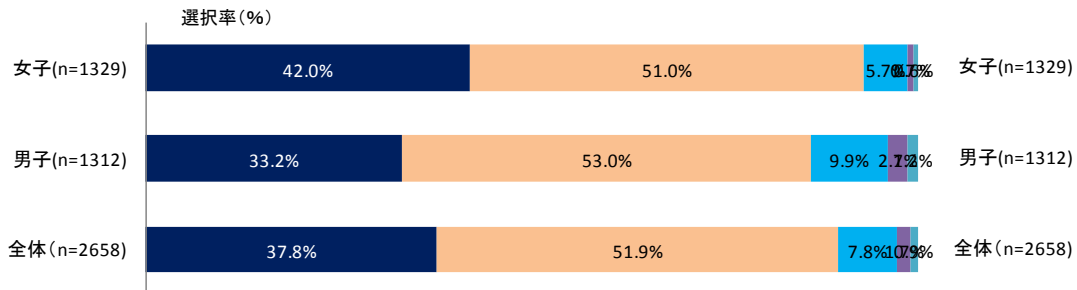
■ とても充実している ■ やや充実している ■ あまり充実していない
■ まったく充実していない ■ 無回答



後輩へお勧めしたいか(青山学院大学)

89.7
%

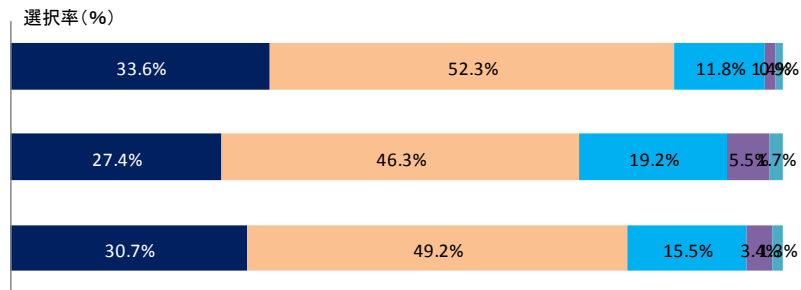
■ お勧めたい ■ やや勧めたい ■ あまり勧めたくない ■ 勧めたくない ■ 無回答



後輩へお勧めしたいか(所属学部・学科)

79.9
%

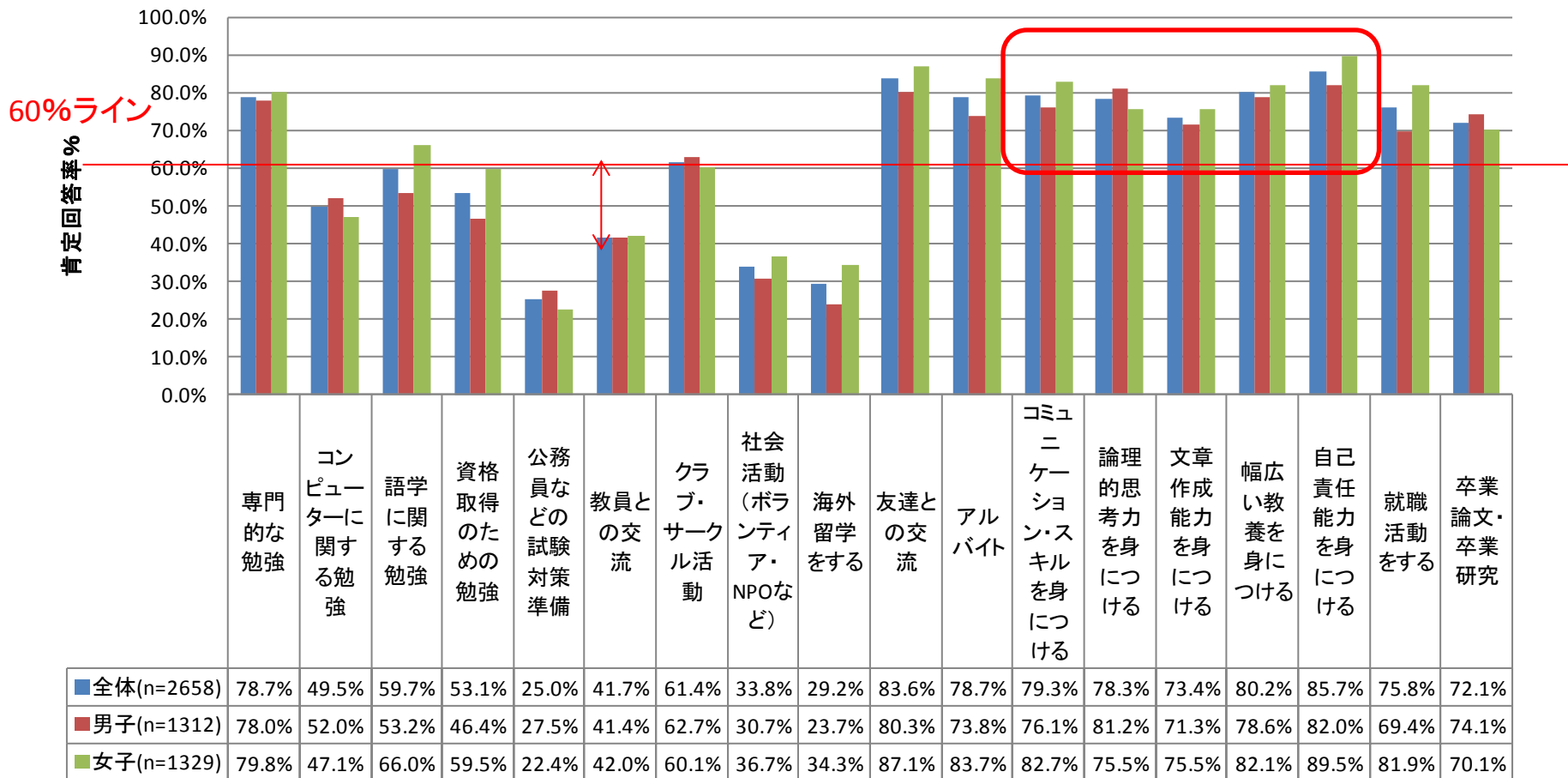
■ お勧めたい ■ やや勧めたい ■ あまり勧めたくない ■ 勧めたくない ■ 無回答



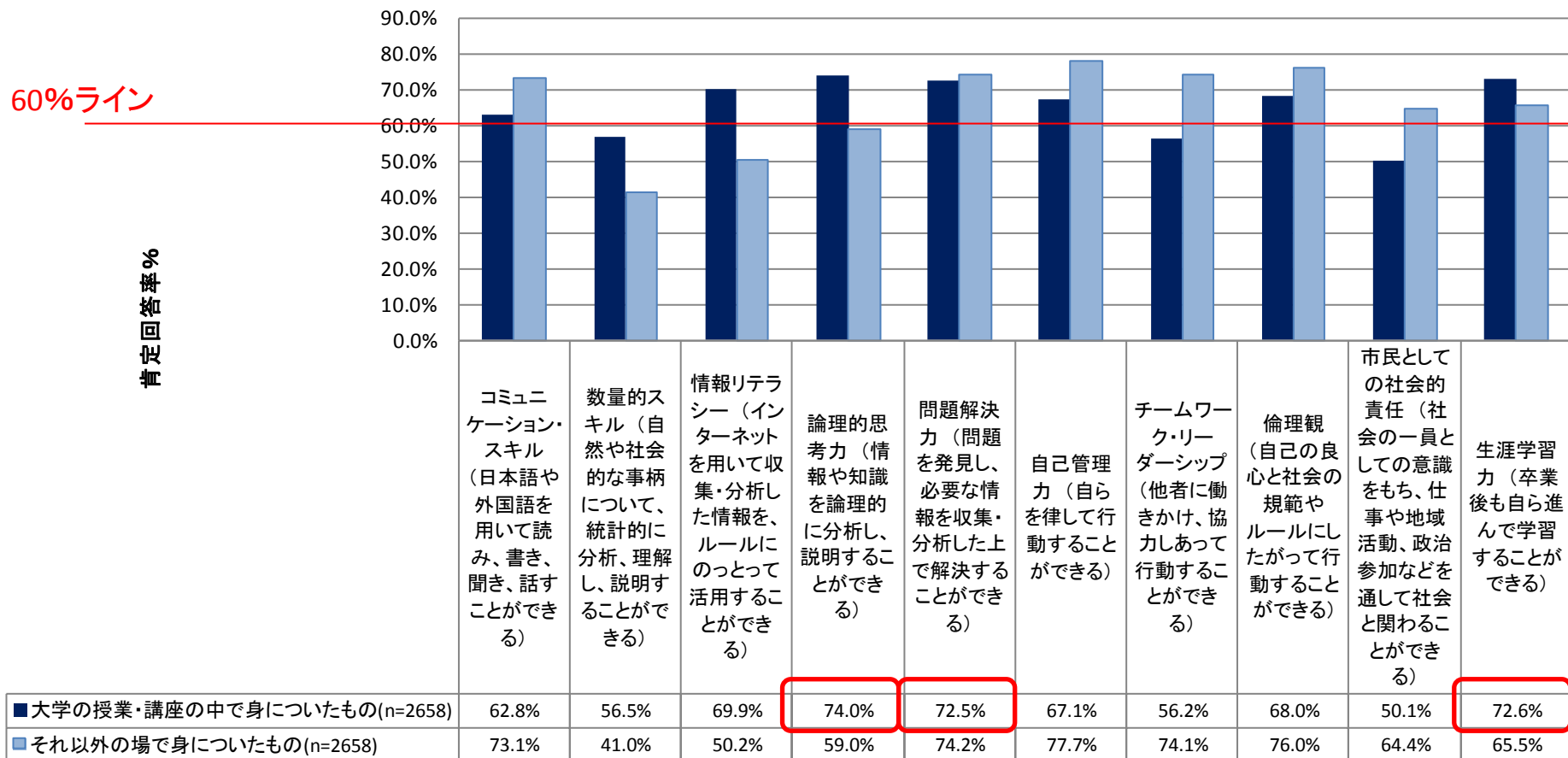
●どの指標も女子学生の肯定率が男子の肯定率を上回る

●満足度関連(総合満足・お勧め)に関しては、(調査回答者のうち)約80%以上の学生が満足

学生生活・力をいれた程度(肯定の回答が選択された比率%)



大学で身についた力

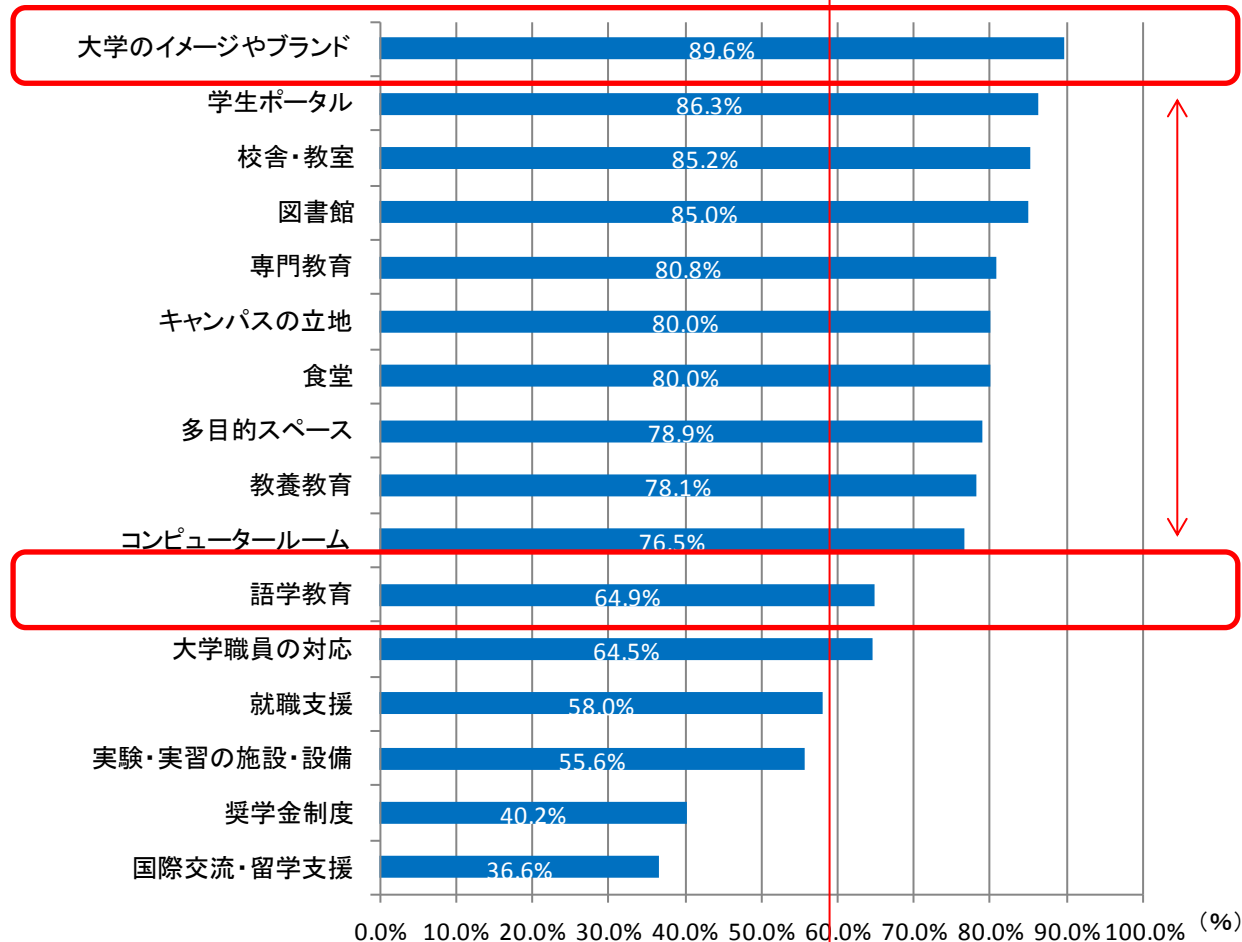


●授業では、「論理的思考力」「問題解決力」「生涯学習力」等が特に身についたと実感

大学教育・学生生活の満足度(肯定回答率)

全体(n=2658)

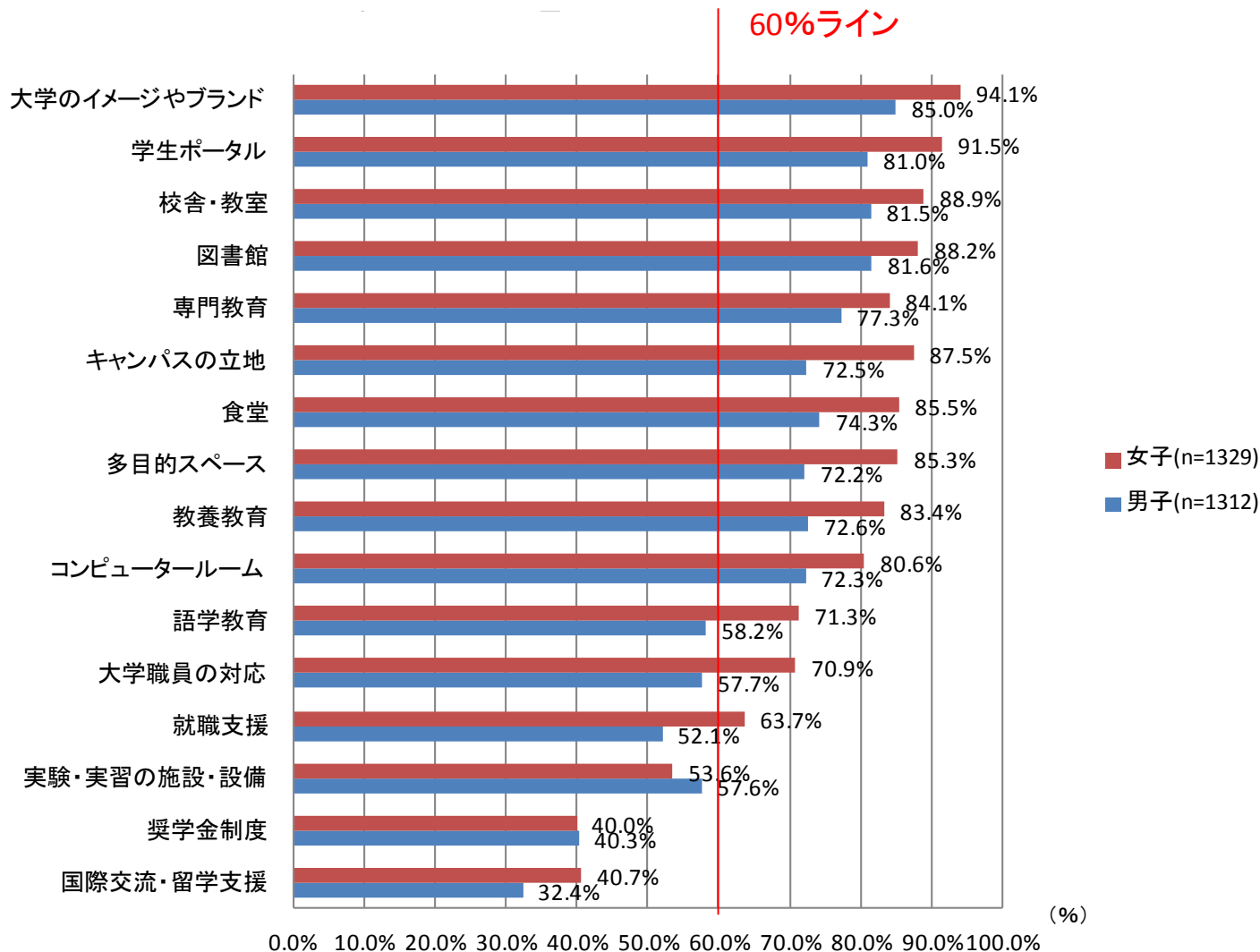
60%ライン



●どの項目も80%程度の学生が満足と回答

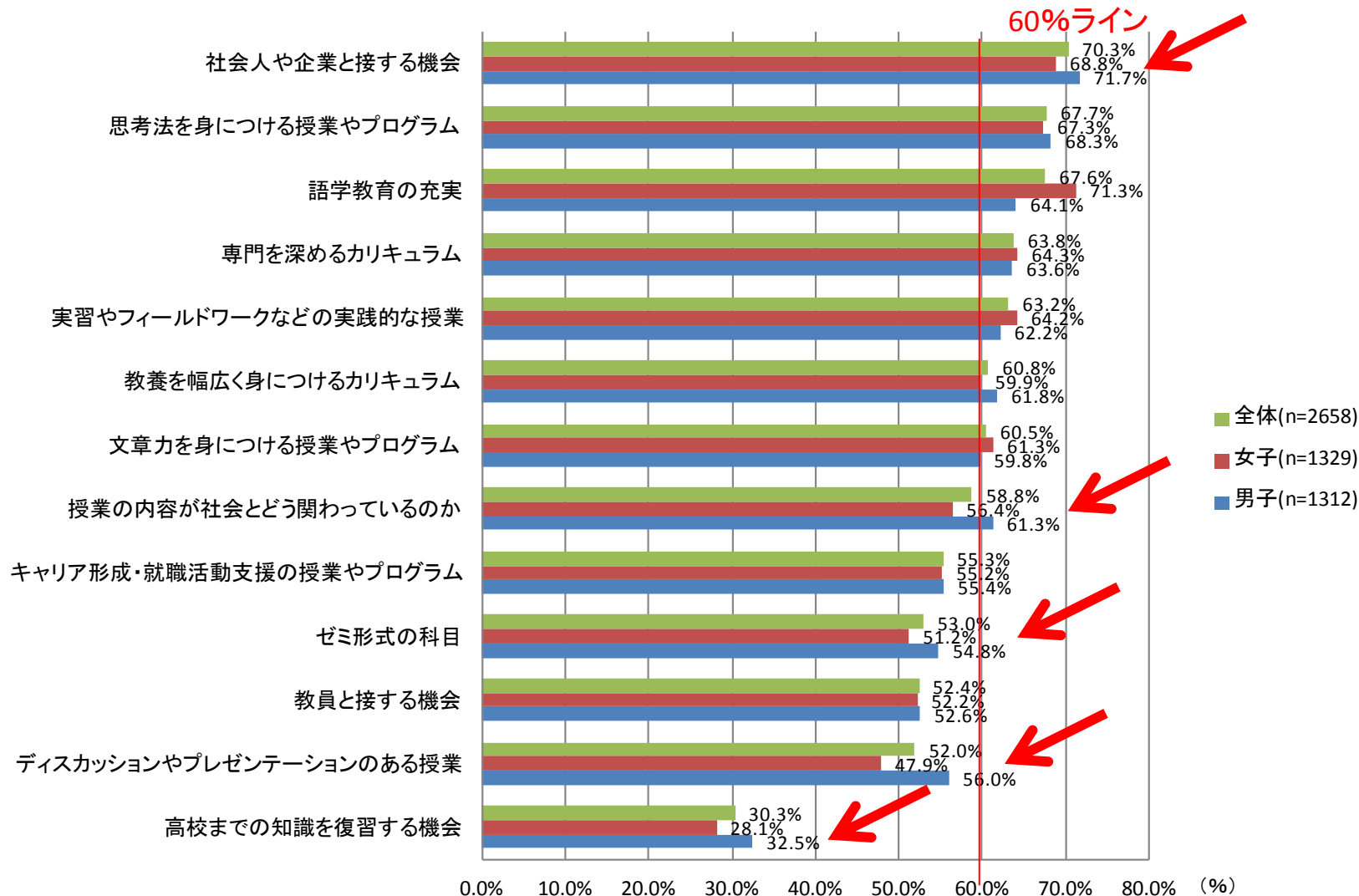
●期待の高い「語学教育」は64.9%

大学教育・学生生活の満足度(肯定回答率)



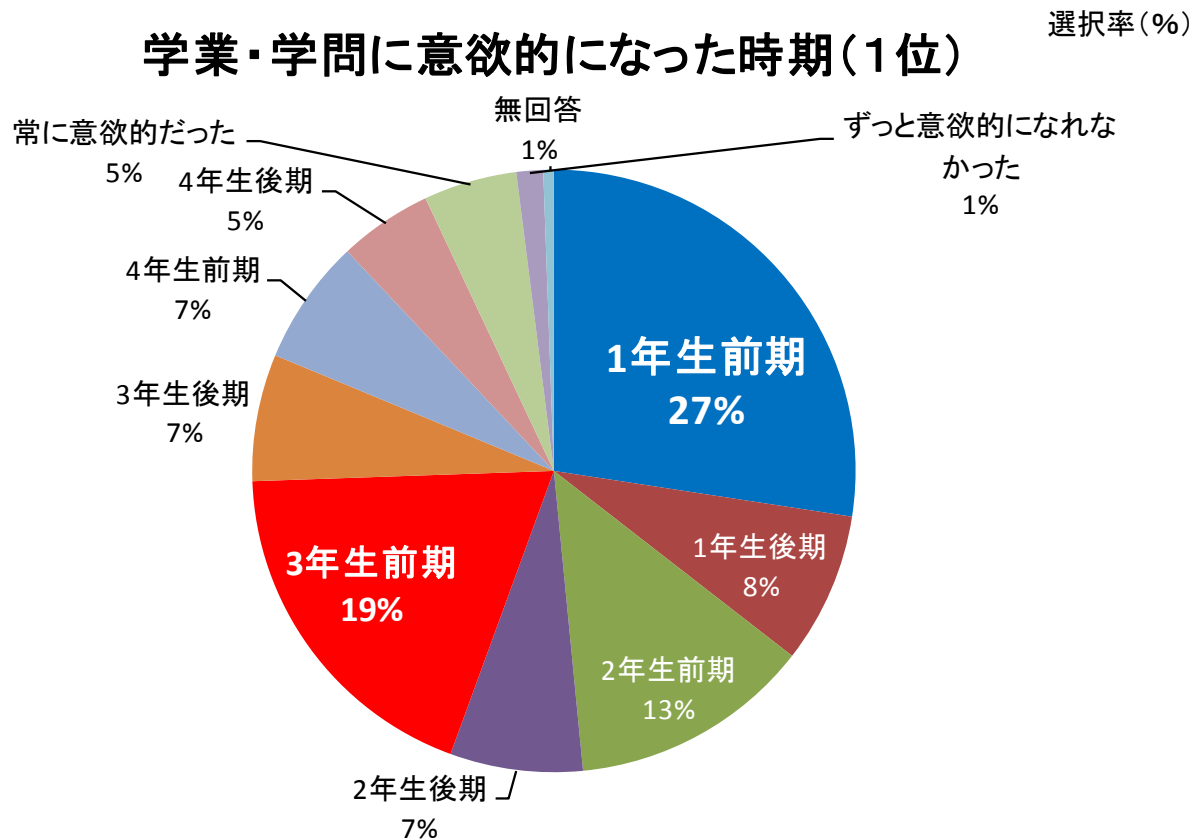
●女子学生の満足度が特に高い

大学教育への要望(増やしてほしいことなど)(肯定回答率)



●70%以上の学生が望むものは「社会人や企業と接する機会」「思考法」「語学」

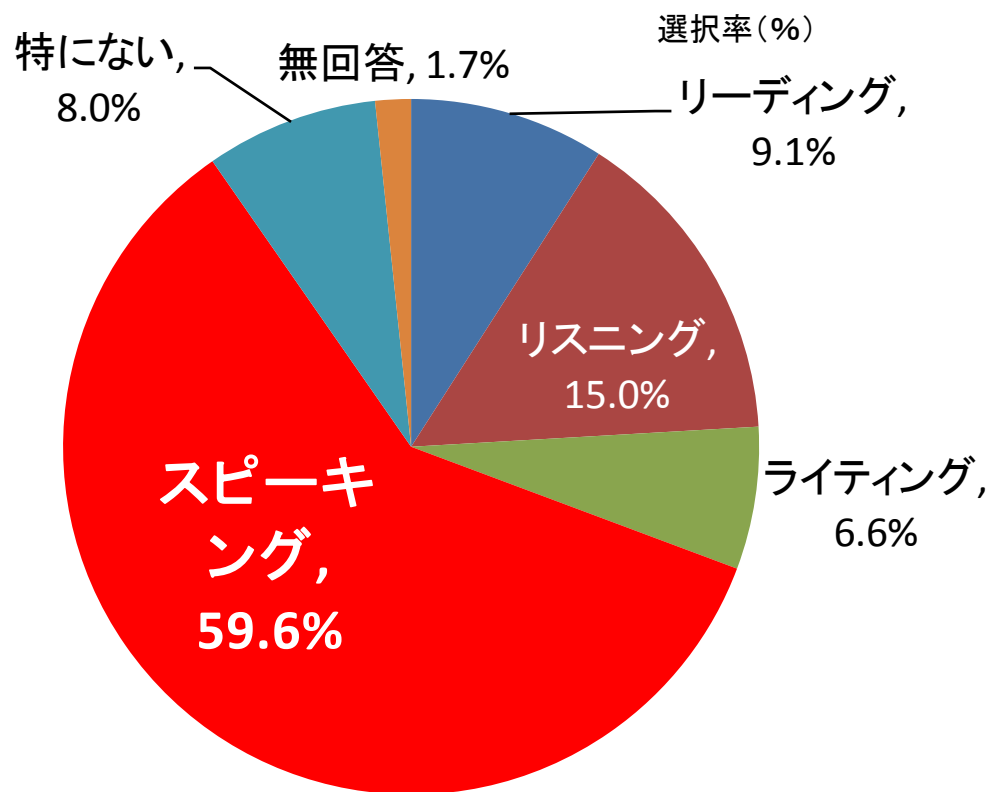
●満足度が女子と比べ低い男子のニーズは「ディスカッションやプレゼン」

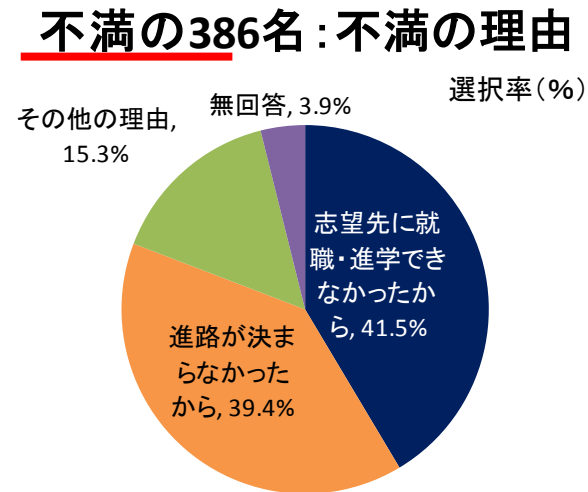
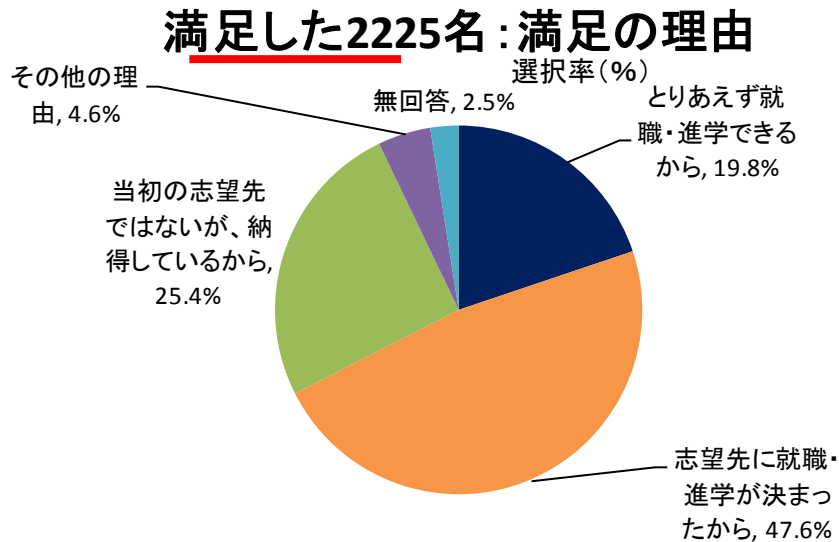
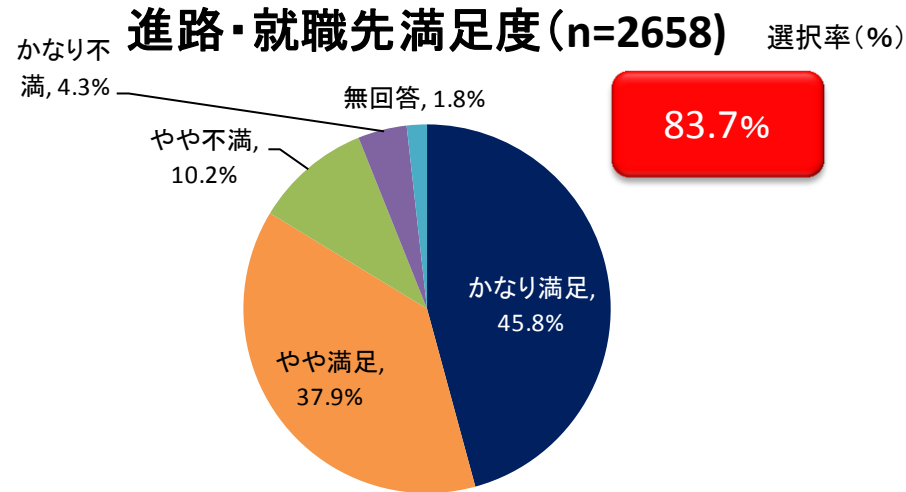


● 1年生前期が最も高く、ついで3年生前期

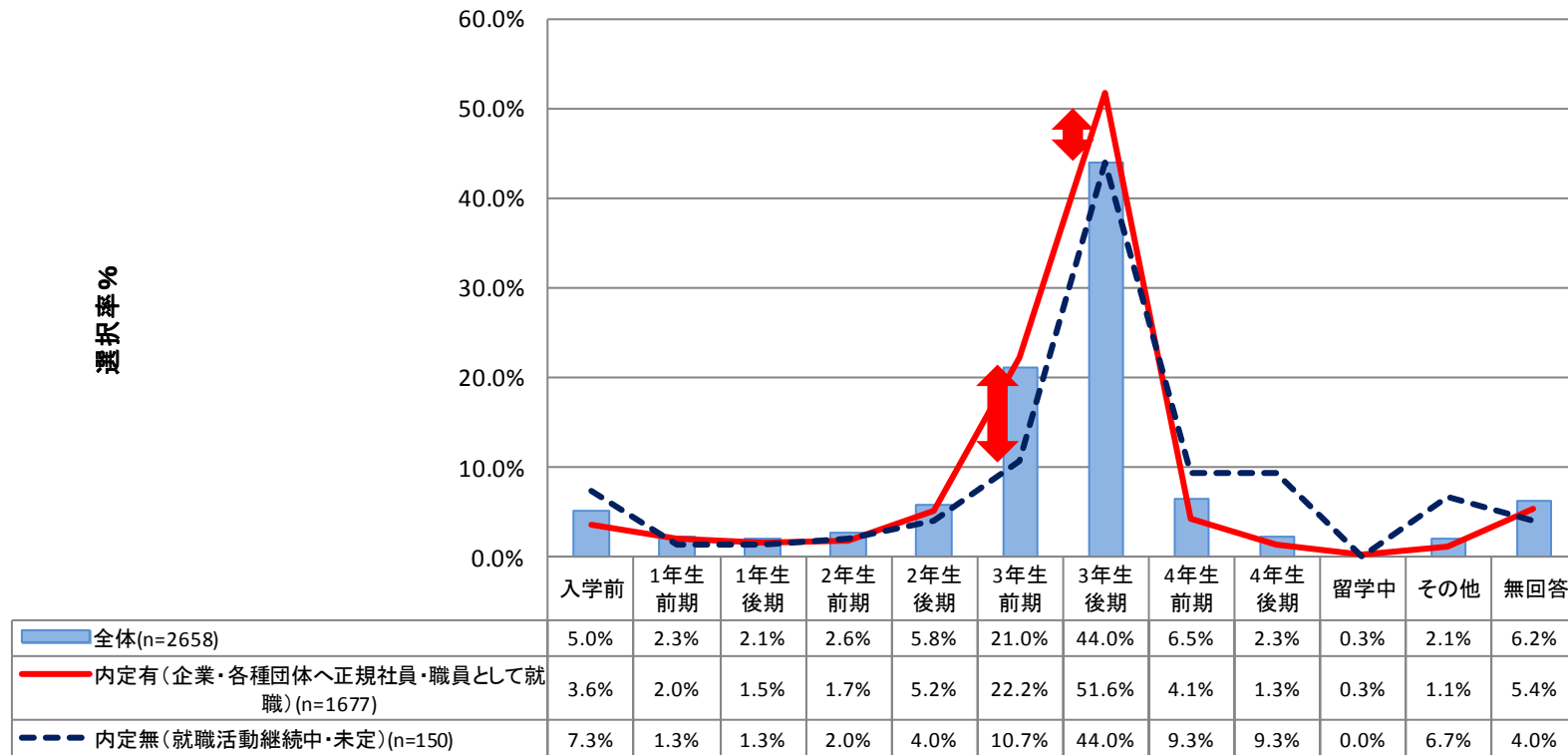
1_1_時期(1位)	1年生前期	1年生後期	2年生前期	2年生後期	3年生前期	3年生後期	4年生前期	4年生後期	ずっと意欲的になれなかった	常に意欲的だった	NA	総計
選択人数	729	215	344	189	502	181	179	133	38	133	15	2658
期待していた通りの教育環境だった	22.36%	7.44%	3.78%	0.53%	1.20%	0.55%	0.56%	0.75%	0.00%	12.78%	0.00%	8.24%
入学後のオリエンテーション・合宿などで刺激を受けた	33.06%	9.77%	3.20%	0.00%	0.20%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.75%	6.67%	10.38%
コース選択、ゼミ・研究室選択などが契機となった	4.66%	20.00%	13.08%	14.29%	16.14%	5.52%	8.38%	3.76%	0.00%	4.51%	0.00%	10.01%
普通の授業で学問の面白さを感じた	17.15%	20.00%	24.71%	19.58%	11.55%	6.63%	5.03%	5.26%	0.00%	21.80%	13.33%	15.31%
学業、学問に関連する文献を読んで刺激を受けた	2.74%	1.86%	6.69%	5.29%	3.39%	2.76%	0.56%	0.00%	0.00%	4.51%	0.00%	3.24%
いい先生に出会った	3.70%	7.44%	8.14%	8.99%	9.76%	7.18%	7.26%	6.02%	0.00%	7.52%	0.00%	6.81%
このままでは進級・卒業できないと思った	1.37%	7.44%	11.92%	9.52%	7.97%	6.08%	8.94%	12.03%	2.63%	2.26%	0.00%	6.47%
ゼミ・研究室での学びを通じて	0.00%	1.40%	4.07%	4.76%	20.72%	12.15%	26.82%	12.03%	0.00%	0.75%	0.00%	8.16%
卒業論文の準備・執筆を通じて	0.14%	0.00%	0.29%	1.06%	0.40%	3.31%	8.94%	33.83%	0.00%	3.01%	0.00%	2.90%
進路について意識始めた	1.78%	3.72%	6.40%	10.58%	15.54%	24.31%	13.41%	5.26%	10.53%	8.27%	0.00%	8.69%
インターンシップで刺激を受けた	0.00%	0.93%	0.87%	0.53%	1.20%	2.76%	1.12%	0.00%	0.00%	0.75%	0.00%	0.75%
就職活動を体験した	0.00%	1.86%	0.29%	0.00%	0.40%	12.71%	8.94%	11.28%	0.00%	0.00%	0.00%	2.29%
海外留学(短期留学、語学研修を含む)を体験した	0.55%	0.93%	6.10%	9.52%	2.99%	5.52%	2.79%	0.00%	0.00%	3.01%	6.67%	3.01%
ボランティアを体験した	0.14%	2.33%	0.58%	0.00%	1.20%	0.55%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.56%
アルバイトが契機となった	0.14%	1.40%	0.00%	1.06%	0.60%	0.00%	0.00%	0.00%	5.26%	0.75%	0.00%	0.45%
学外での活動(上記以外)で学びの必要性を感じた	0.96%	3.26%	2.03%	3.17%	1.59%	4.42%	2.23%	1.50%	2.63%	2.26%	0.00%	1.99%
友人の影響	3.98%	2.33%	3.49%	5.82%	1.39%	1.66%	2.23%	2.26%	0.00%	4.51%	0.00%	3.01%
その他	6.31%	6.51%	3.78%	5.29%	3.59%	3.31%	2.23%	4.51%	50.00%	18.05%	0.00%	6.02%
NA	0.96%	1.40%	0.58%	0.00%	0.20%	0.55%	0.56%	1.50%	28.95%	4.51%	73.33%	1.69%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

英語教育で充実させてほしかった分野

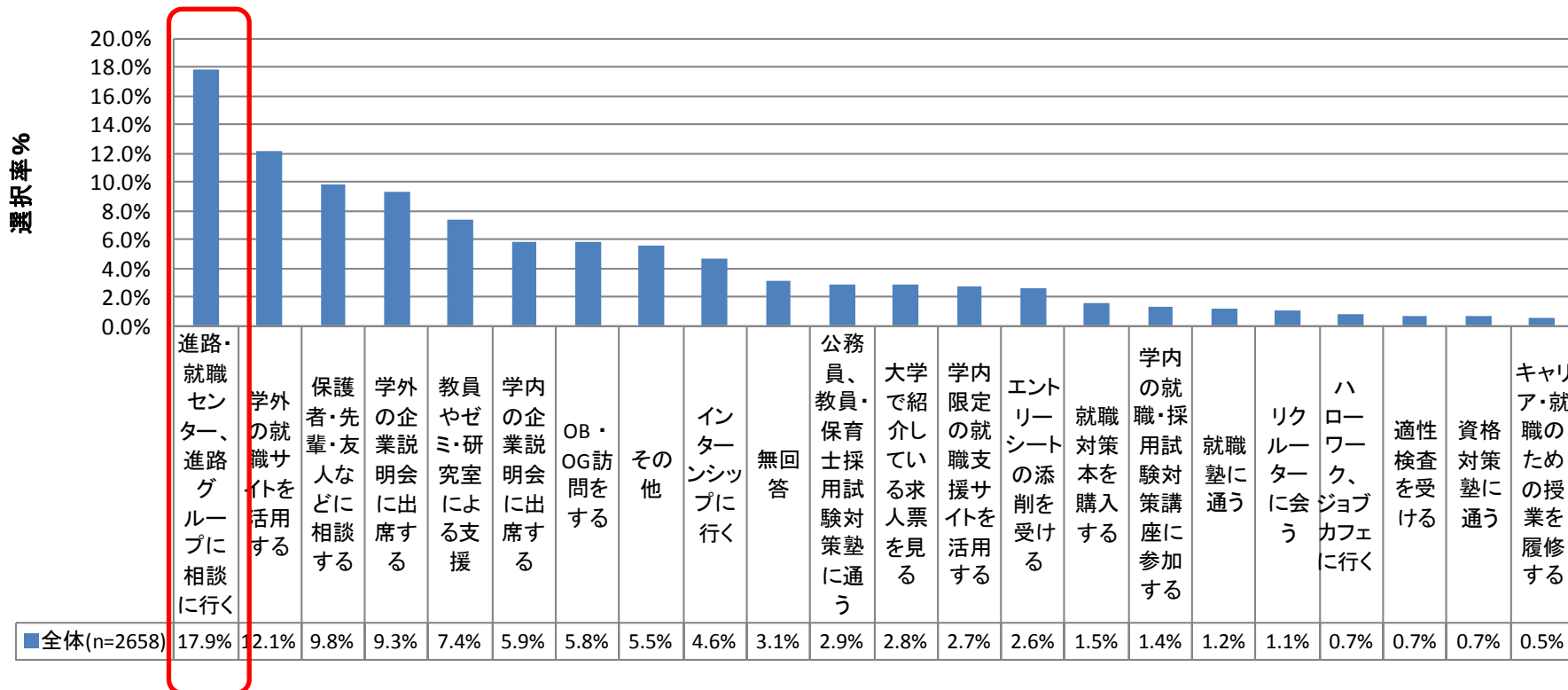




卒業後の進路について具体的な行動を始めた時期



就職準備で役立ったこと(1位)



卒業生調査から 教育改善のヒントを探る

青山学院大学にとって「大学ブランド」が持つ意味合いは大きい
⇒入学時の大学志望度と、卒業時の大学総合満足度に着目して

1年生データ(2013)・・・大学ブランドと語学に期待

- ・専門や教養、語学だけではなく、クラブ・サークルや社会活動、海外留学などさまざまなことに取り組みたいと考える活発な学生が入学
- ・青山学院大学に対しては“大学ブランド”に信頼を寄せ、語学教育、国際交流などに期待している。語学教育に求めるレベルは高い
- ・近年、教員との交流を期待する学生が増加

2年生データ(2013)・・・希望に近い学生生活、充実と満足

- ・入学前に抱いていた青山学院大学に対するよいイメージは維持されている
- ・約8割の学生が充実、約7割の学生が所属する学部・学科をお勧めしている
- ・入学時の希望通り、「語学」「クラブ・サークル」に力を入れている⇒特にコミュニケーションスキルが身についた実感が高いことが特徴
- ・期待が高まる教員との交流を実現している割合は低い

3年生から(2013)・・・希望に近い学生生活、充実と成長、満足

- ・約8割の学生が充実、約7割の学生が所属する学部・学科をお勧めしている
- ・特にコミュニケーションスキルが身についた実感が高いことが特徴
- ・大学教育に対し、「企業と接する機会」を求める割合が約7割、「文章やレポートを学ぶ機会」「教員と接する機会」「思考方法を学ぶ機会」「実践的な授業」「語学教育の充実」は6割を超える学生が希望している(いずれも回答者に占める割合)

4年生から(2012)・・・大学ブランド、教育に満足。論理的思考力や問題解決力が身についた

- ・大学教育に総合的に満足している割合、後輩へ青山学院大学をお勧めする割合は約9割
- ・約9割の学生が充実、約8割の学生が所属する学部・学科をお勧めしている
- ・学業・学問に意欲的になった時期は1年生前期⇒3年生前期。1年生前期では、「オリエンテーションや合宿」などで意欲的になる学生が多く、3年生では「ゼミ・研究室」などが影響している。
- ・学生生活では、専門、教養、語学だけでなく、クラブ・サークル活動やアルバイトなど正課・課外ともに取り組んだ学生が約8割
- ・約8割の学生が、スキル系(コミュニケーションスキル、論理的思考力、文章作成)等に力を入れた実感をもつ
- ・約7割の学生が大学の授業では「論理的思考力」「問題解決力」「生涯学習力」などが身についたと実感している
- ・個別満足16項目のうち、12項目において6割以上の学生が満足している。
特に9割の学生が、「大学のイメージやブランド」に対し満足している。
- ・大学教育に対し、約7割の学生が「企業と接する機会」「思考方法を学ぶ機会」「語学教育の充実」などを要望している
- ・英語教育に対しては約6割の学生が「スピーキング」を充実させてほしかったと回答
- ・進路・就職先には約8割の学生が満足しており、就職準備で役立ったことで最も多い回答は「進路・就職センターに行く」

青山学院大学に対する満足度をさらに高めるための観点として

- 入学前後の施策（高大接続、マインドセット）
- 成長を実感できる科目（思考力を鍛える、積極的な対人コミュニケーション）
- 教員との交流（ゼミ、ゼミ形式科目）
- 職員対応
- 早期からのキャリア支援

という示唆が出てまいりましたが…

「データは議論のスピードを速め、共通認識をもつための最適ツールです」

データが全てではなく、データを加えて対話を重ねていただければ幸いです

青山学院大学が目指す人材育成
大学満足度向上

施策立案
(PDCA)

語学

留学

学部

青
スタ

就
職

広
報

教職員の皆
様の対話

データにより
可視化された学生像

確認
すり合わせ

日ごろの皆様の実感